令和8年度第2回
インターネット都政モニターアンケート

「献血への意識」

調　査　結　果



東京都

調 査 実 施 の 概 要

1　アンケートテーマ
献血への意識

2　アンケート目的
献血に関する意識や現状を把握し、今後の献血の広報・普及啓発の参考とする。

3　アンケート期間
令和８年７月30日（木曜日）から８月６日（木曜日）まで

4　アンケート方法
インターネットを通して、モニターがアンケート専用ホームページに回答を入力する。

5　インターネット都政モニター数
500人

6　回答者数
488人

7　回答率
97.6％

献血への意識

1 調 査 項 目

Q１　献血のイメージ
Q２　献血の経験
Q３　献血のきっかけ
Q４　献血をして思ったこと
Q５　献血をしない理由
Q６　献血について知っていること
Q７　献血ルームの認知度
Q８　献血ルームの印象
Q９　献血の広報・普及啓発活動の認知度
Q10　「愛の血液助け合い運動」ポスターの認知度
Q11　「愛の血液助け合い運動」ポスターの印象
Q12　「はたちの献血」ポスターの認知度
Q13　「はたちの献血」ポスターの印象
Q14　「はたちの献血」動画の印象
Q15　効果的な献血の広報・普及啓発活動
Q16　効果的な献血の情報発信
Q17　今後の献血の意向
Q18　今後献血をしようと思う理由
Q19　今後献血をしようと思わない理由
Q20　献血についての要望・意見（自由意見）

2 アンケート回答者属性

		モニター人数	回答		
			人数	構成比	率
全体		500	488	－	97.6
性別	男性	250	244	50.0	97.6
	女性	250	244	50.0	97.6
年代別	18･19歳	10	9	1.8	90.0
	20代	70	63	12.9	90.0
	30代	74	74	15.2	100.0
	40代	83	79	16.2	95.2
	50代	91	91	18.6	100.0
	60代	64	64	13.1	100.0
	70歳以上	108	108	22.1	100.0
職業別	自営業	41	41	8.4	100.0
	常勤	231	225	46.1	97.4
	パート･アルバイト	69	66	13.5	95.7
	主婦･主夫	67	65	13.3	97.0
	学生	26	25	5.1	96.2
	無職	66	66	13.5	100.0
居住地域別	東京都区部	344	332	68.0	96.5
	東京都市町村部	156	156	32.0	100.0

※ 集計結果は百分率（%）で示し、小数点以下第2位を四捨五入して算出した。そのため、合計が100.0%にならないものがある。

※ n（number of cases）は、比率算出の基数であり、100%が何人の回答者に相当するかを示す。

※ 複数回答方法・・・(MA) =いくつでも選択、(5MA) =5つまで選択、(3MA) =3つまで選択、(2MA) =2つまで選択

■　献血への意識

血液は、人工的に造ることができず、長期間の保存もできません。病気やけがで治療を必要としている方々に、血液製剤を届けるためには多くの方の継続的なご協力が欠かせません。

東京都では、以下のように国のキャンペーンと連動した献血キャンペーンを年に２回、東京都独自の献血キャンペーンを年に１回実施しています。

・キャンペーン周知用ポスターの作成及び都営地下鉄やＪＲ等での車内中吊り広告
・東京都広報紙、都公式ホームページの活用
・WEB、SNS 等を活用した若年層への献血協力の呼びかけ
・動画を使った広報活動（街頭ビジョンや電車内デジタルサイネージでの放映等）
・東京都庁職員献血の実施

今回のアンケートでは、献血についての意識や現状を把握し、今後の献血の広報・普及啓発の参考とするため、都政モニターの皆様のご意見を伺います。

【参考】都の血液事業

https://www.hokeniryo.metro.tokyo.lg.jp/kenkou/k_isyoku/jigyou



採血ベッド　（日本赤十字社）

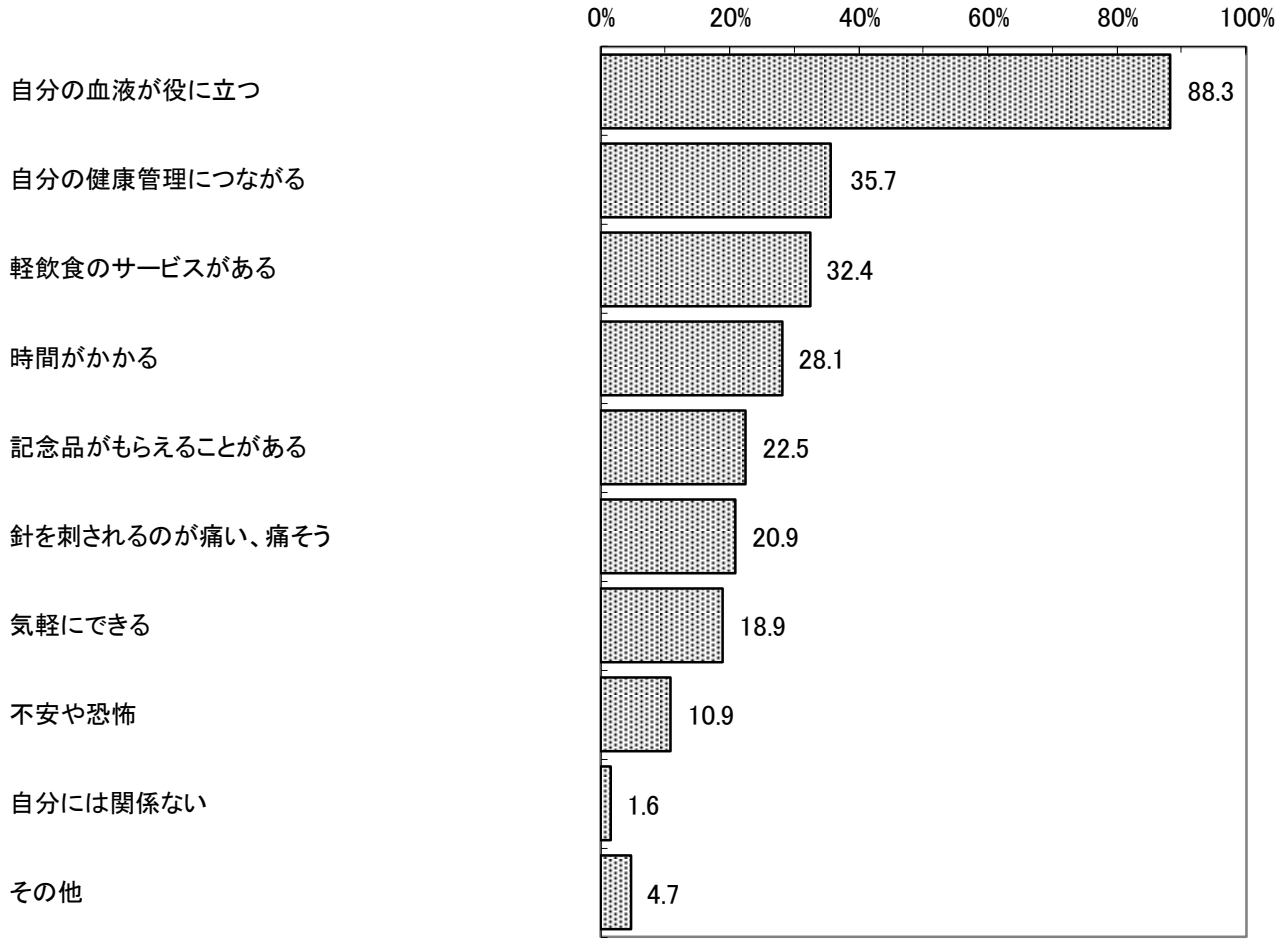


献血の呼びかけ　（日本赤十字社）

献血のイメージ

Ｑ１　献血について、どのようなイメージがありますか。次の中から３つまで選んでください。

3MA(n=488)



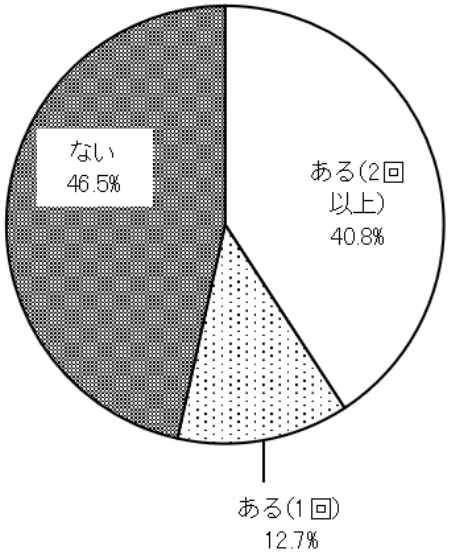
【調査結果の概要】

献血について、どのようなイメージがあるか聞いたところ、「自分の血液が役に立つ」（88.3%）が９割近くと最も高く、以下、「自分の健康管理につながる」（35.7%）、「軽飲食のサービスがある」（32.4%）などと続いている。

献血の経験

Ｑ２　献血をしたことがありますか。

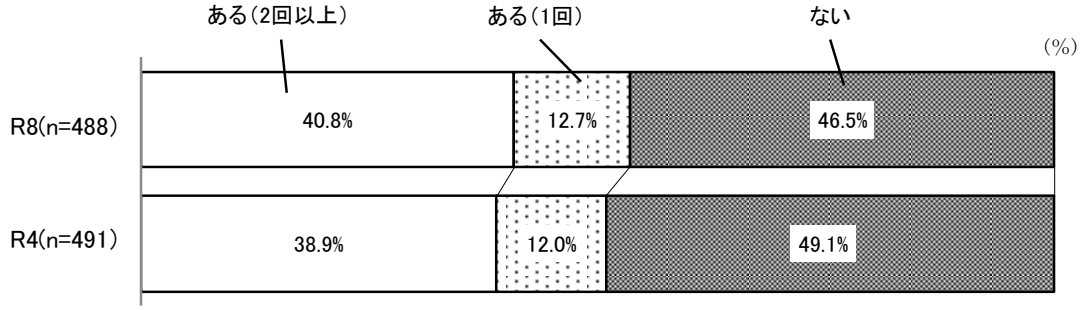
(n=488)



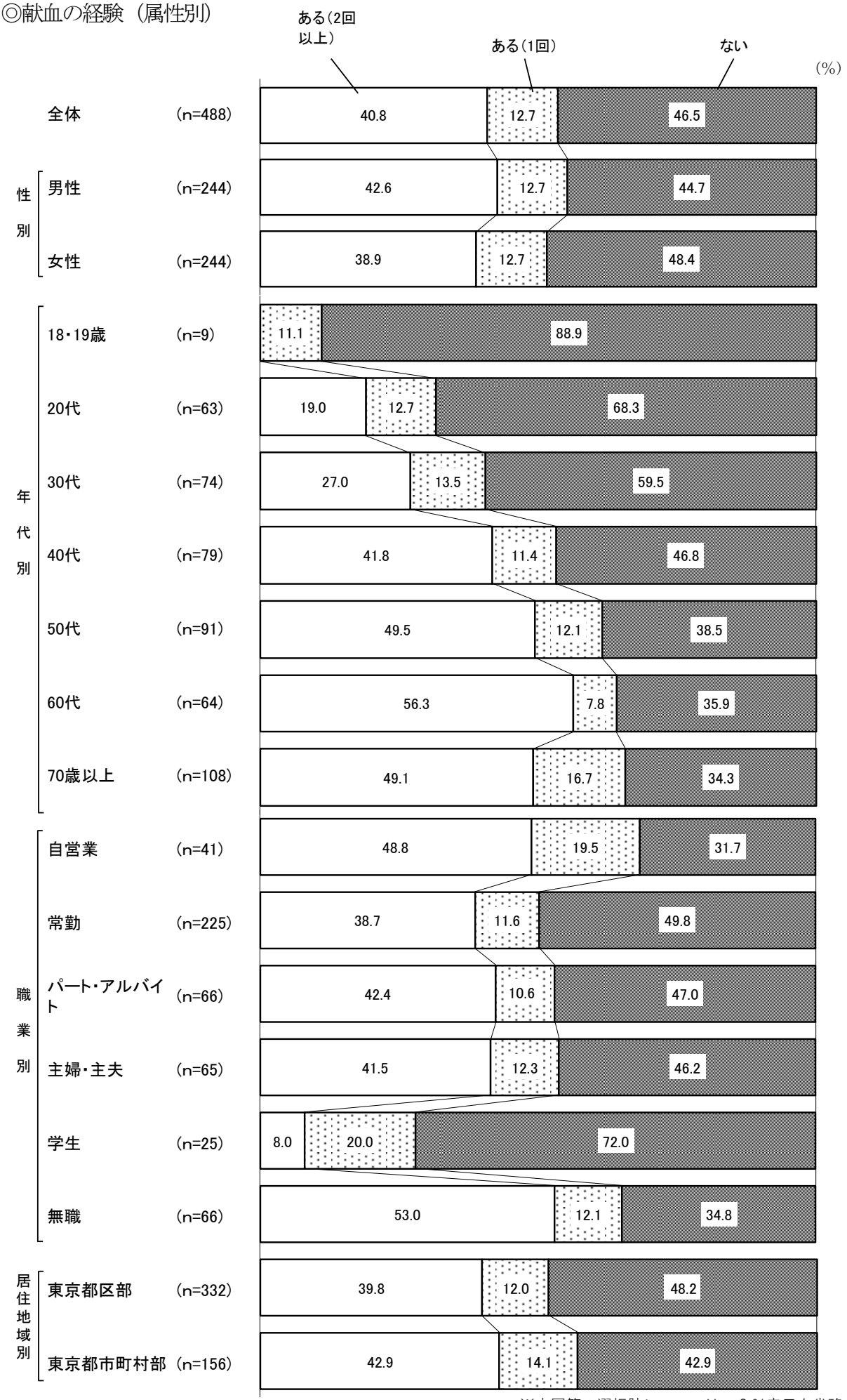
【調査結果の概要】

献血をしたことがあるか聞いたところ、『ある（計)』(53.5%)（「２回以上」(40.8%)、「１回」(12.7%)）が５割を超え、『ない』(46.5%）は４割半ばだった。

◎前回調査との比較　＜前回：令和４年９月実施「歯と口の健康」と「献血への意識」＞



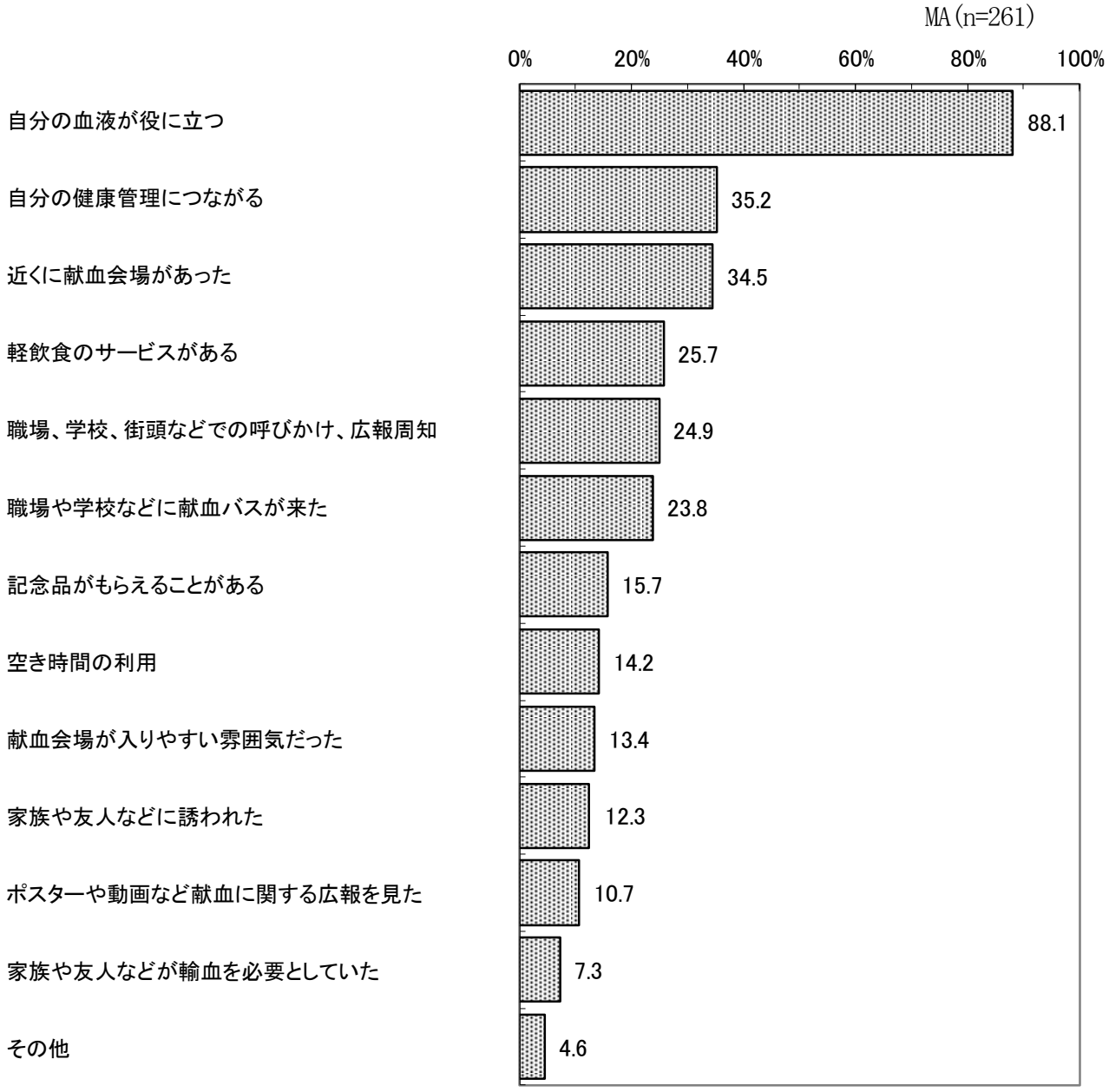
◎献血の経験（属性別）



※未回答の選択肢については、０％表示を省略

献血のきっかけ

Ｑ３　Ｑ２で「ある（２回以上)」、「ある（１回)」と答えた方に伺います。献血をした理由は何ですか。次の中からいくつでも選んでください。



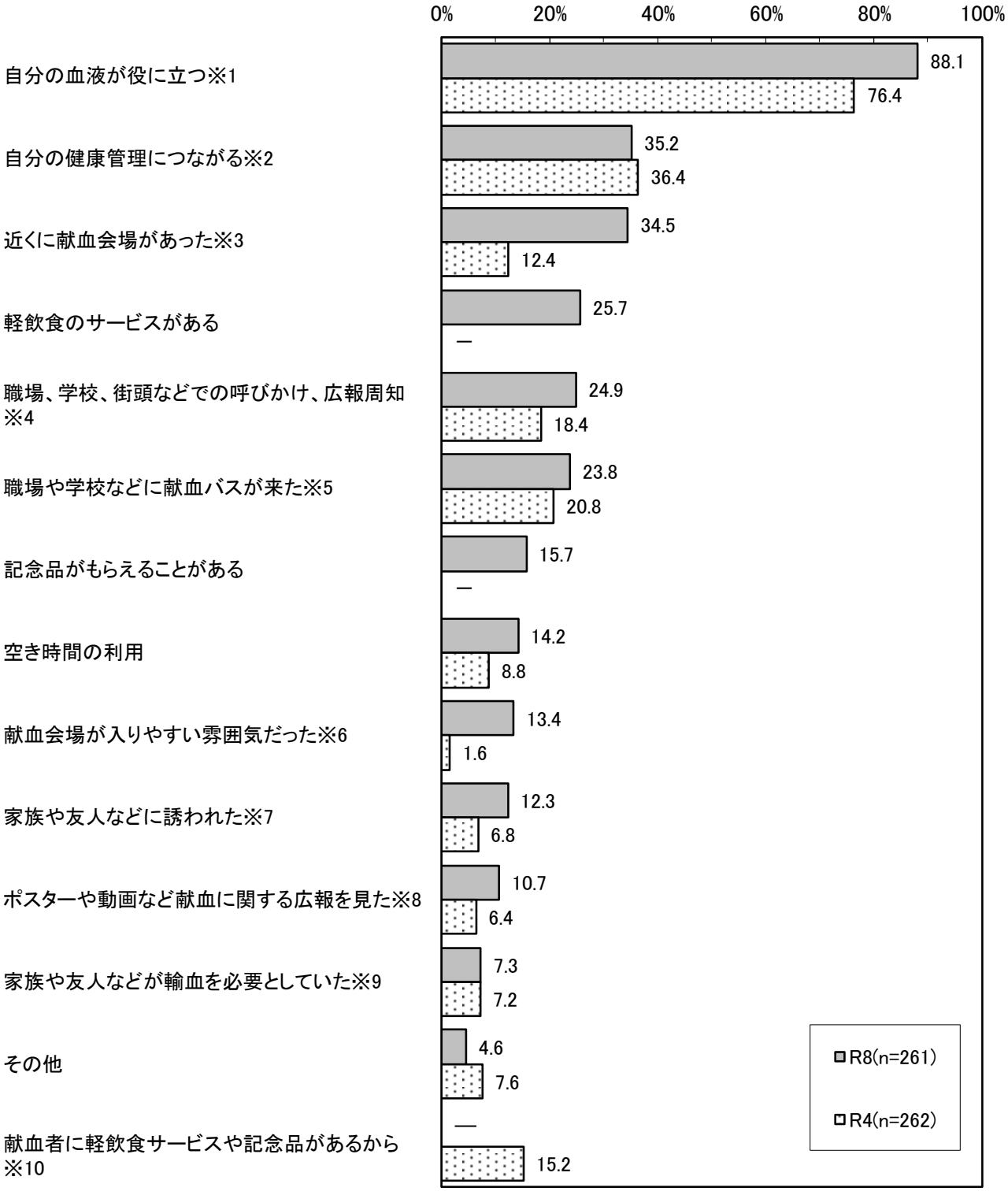


献血バス（日本赤十字社）

【調査結果の概要】

Ｑ２で「ある（２回以上)」、「ある（１回)」と答えた方261人に、献血をした理由を聞いたところ、「自分の血液が役に立つ」（88.1％）が９割近くと最も高く、以下、「自分の健康管理につながる」（35.2％)、「近くに献血会場があった」（34.5％）などと続いている。

◎前回調査との比較　＜前回：令和４年９月実施「歯と口の健康」と「献血への意識」＞

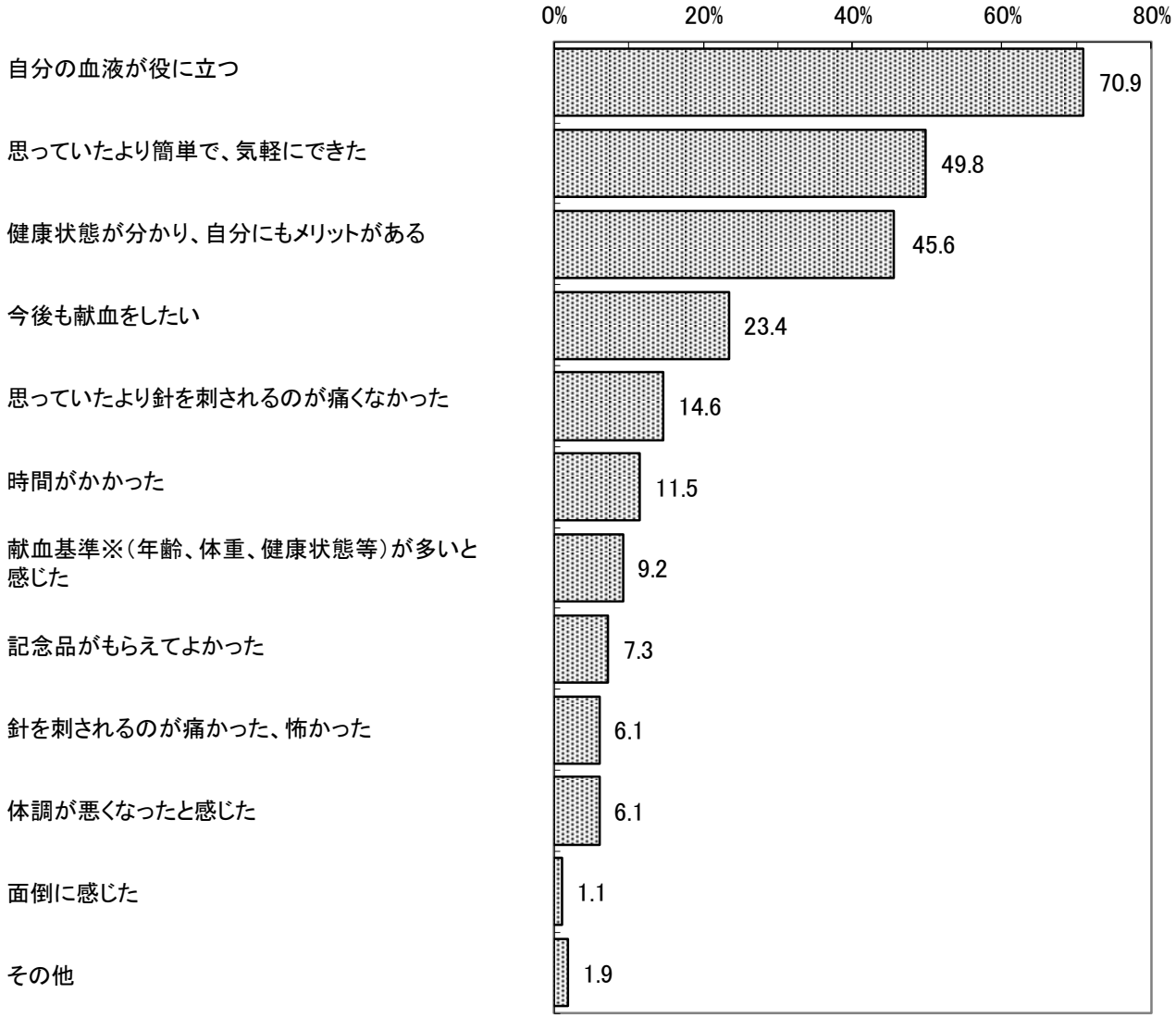


※1　令和4年度は「自分の血液を役立ててほしいから」で集計
※2　令和4年度は「自分の健康管理につながるから」で集計
※3　令和4年度は「近くに献血できる場所があった」で集計
※4　令和4年度は「職場、学校、街頭などでの呼びかけ」で集計
※5　令和4年度は「職場や学校などに献血バスが来たから」で集計
※6　令和4年度は「献血ルームが入りやすい雰囲気だった」で集計
※7　令和4年度は「家族や知人などの誘い」で集計
※8　令和4年度は「ポスターや動画など献血に関する広報を見たから」で集計
※9　令和4年度は「家族や知人などが輸血を必要としていたから」で集計
※10　令和4年度は「献血者に軽飲食サービスや記念品があるから」で集計

献血をして思ったこと

Ｑ４　Ｑ２で「ある（２回以上）」、「ある（１回）」と答えた方に伺います。献血をして、どのように思いましたか。次の中から３つまで選んでください。

3MA(n=261)



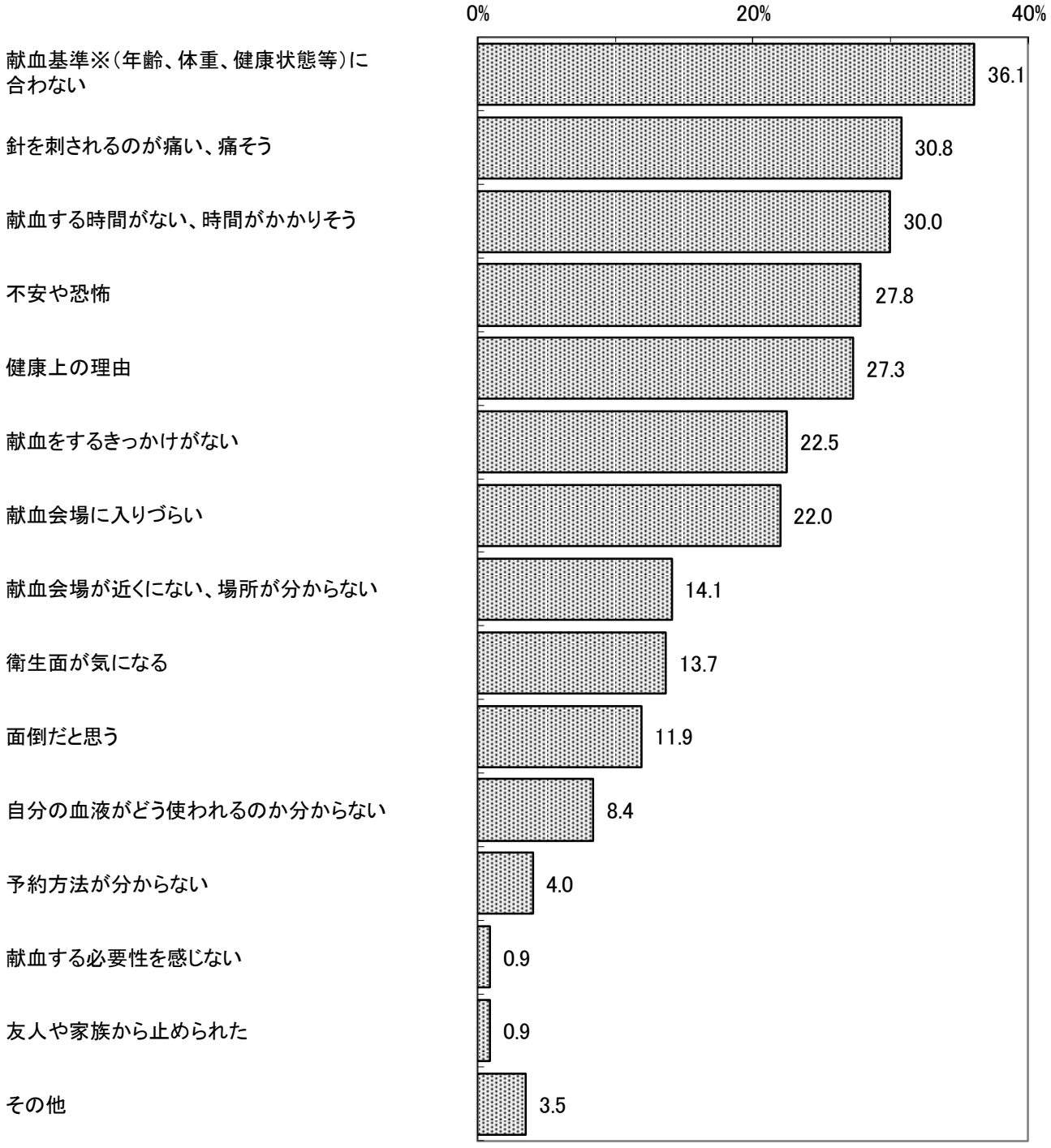
※　献血基準（日本赤十字社ホームページ）
https://www.jrc.or.jp/donation/about/terms/

【調査結果の概要】Ｑ２で「ある（２回以上）」、「ある（１回）」と答えた方261人に、献血をして思ったことを聞いたところ、「自分の血液が役に立つ」（70.9%）が約７割と最も高く、以下、「思っていたより簡単で、気軽にできた」（49.8%）、「健康状態が分かり、自分にもメリットがある」（45.6%）などと続いている。

献血をしない理由

Ｑ５　Ｑ２で「ない」と答えた方に伺います。献血をしなかった理由は何ですか。次の中から５つまで選んでください。

5MA(n=227)



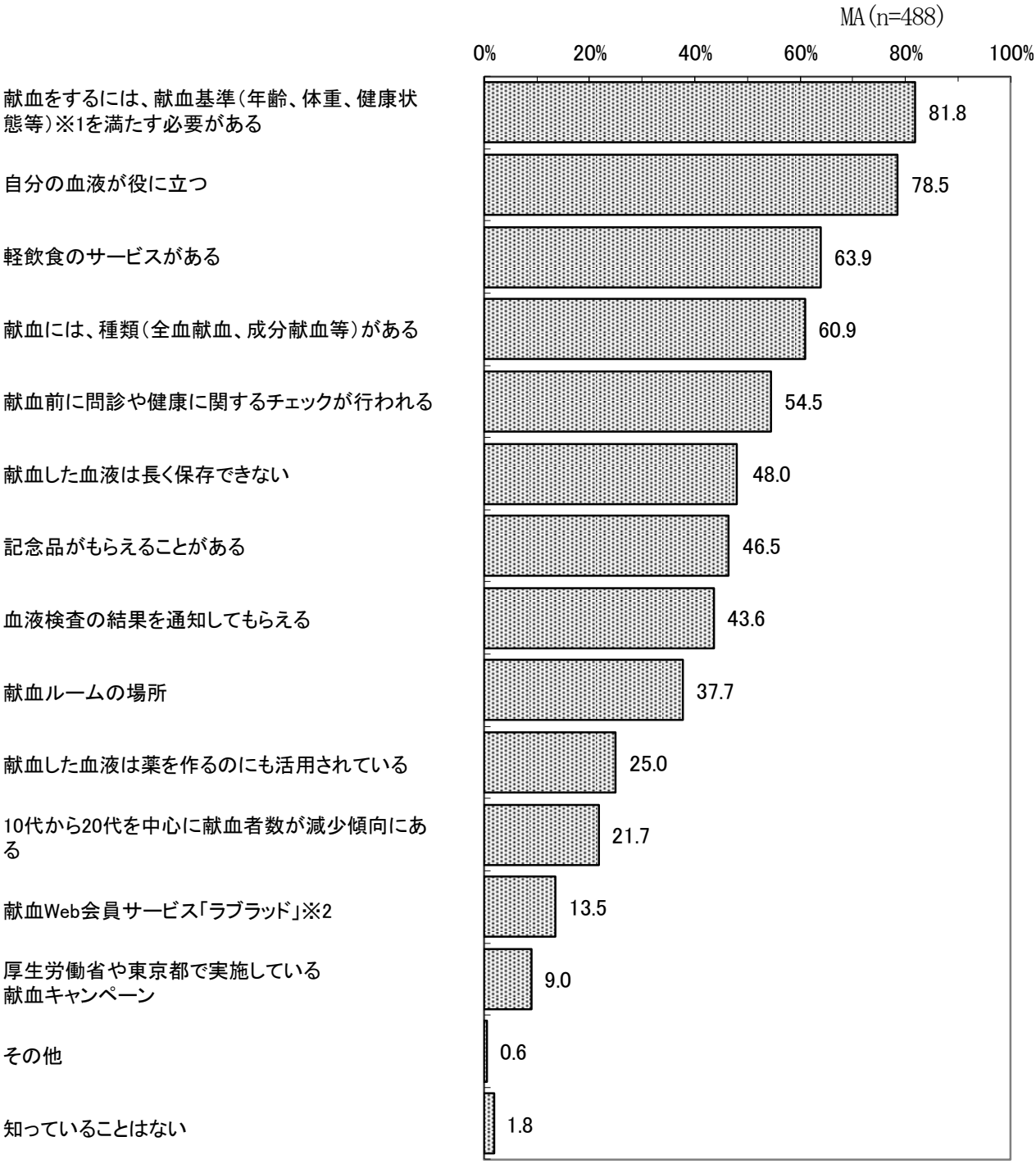
※　献血基準（日本赤十字社ホームページ）
https://www.jrc.or.jp/donation/about/terms/

【調査結果の概要】

Ｑ２で「ない」と答えた方227人に、献血をしなかった理由を聞いたところ、「献血基準（年齢、体重、健康状態等）に合わない」（36.1%）が３割半ばと最も高く、以下、「針を刺されるのが痛い、痛そう」（30.8%）、「献血する時間がない、時間がかかりそう」（30.0%）などと続いている。

献血について知っていること

Ｑ６　献血について知っていることは何ですか。次の中からいくつでも選んでください。



※１　献血基準（日本赤十字社ホームページ）

https://www.jrc.or.jp/donation/about/terms/

※２　献血Web会員サービス「ラブラッド」

利用者の方へのサービス向上を目的として、日本赤十字社が運営する会員サイト。

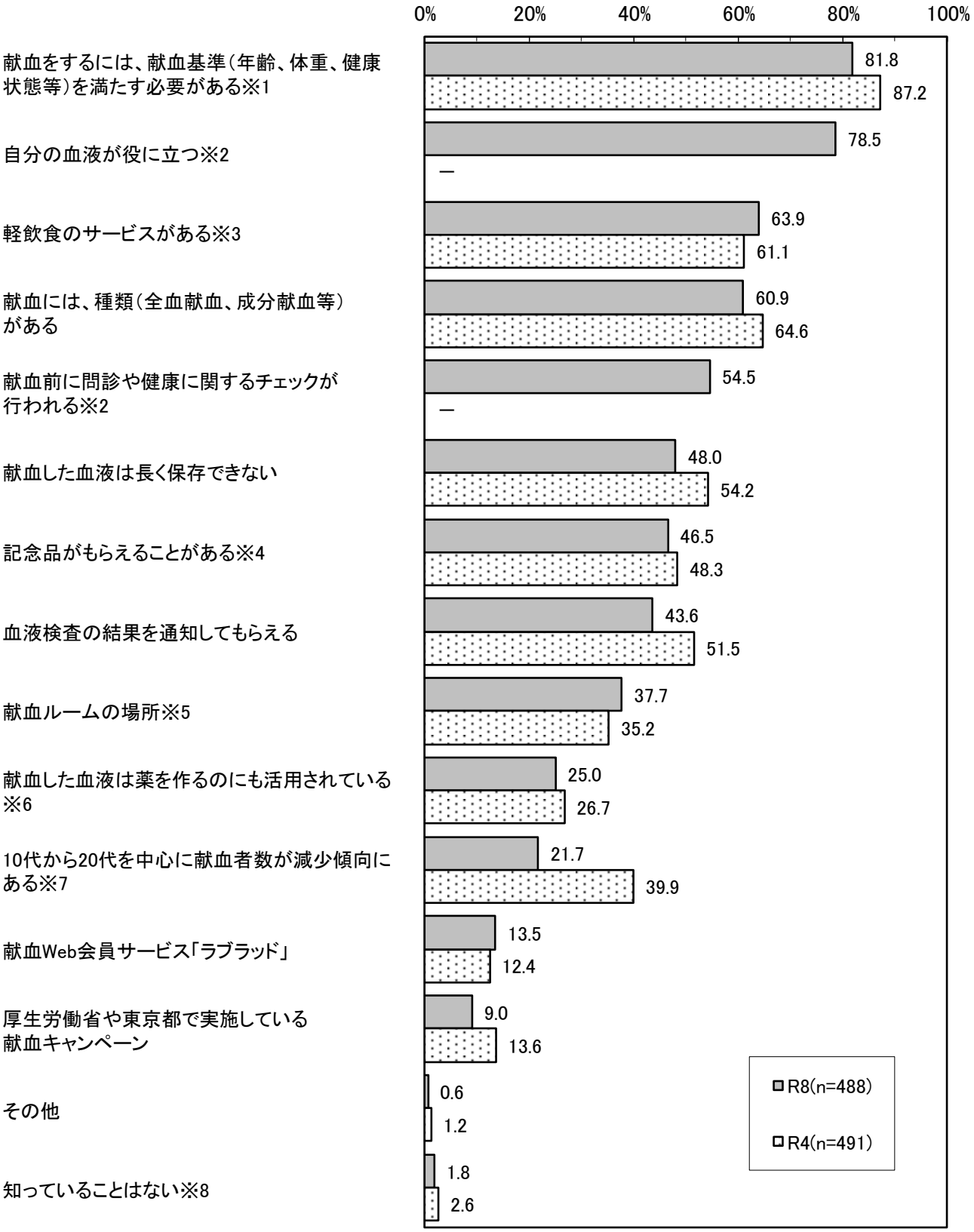
献血の予約がネット上でできるほか、献血記録の確認ができる。（日本赤十字社ホームページ）

https://www.jrc.or.jp/donation/club/

【調査結果の概要】

献血について知っていることを聞いたところ、「献血をするには、献血基準（年齢、体重、健康状態等）を満たす必要がある」（81.8%）が８割を超え最も高く、以下、「自分の血液が役に立つ」（78.5%）、「軽飲食のサービスがある」（63.9%）などと続いている。

◎前回調査との比較　＜前回：令和４年９月実施「歯と口の健康」と「献血への意識」＞



※1　令和4年度は「献血をするには、一定の基準を満たしている必要がある（年齢、体重、健康状態等）」で集計
※2　令和4年度は選択肢なし
※3　令和4年度は「献血ルームで軽飲食のサービスがある」で集計
※4　令和4年度は「献血をすると記念品がもらえる」で集計
※5　令和4年度は「最寄りの献血ルームの場所」で集計
※6　令和4年度は「献血は、薬を作るのにも活用されている」で集計
※7　令和4年度は「若者を中心に献血者が減少している」で集計
※8　令和4年度は「一つも知らなかった」で集計

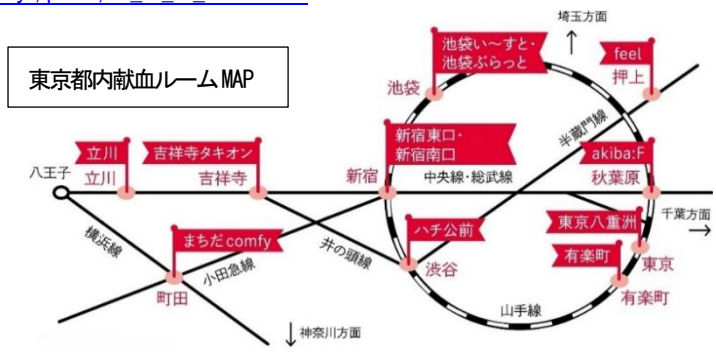
献血ルームの認知度

【献血ルーム】

日本赤十字社が運営している安全に採血を行うための常設施設です。献血ルームマップのとおり、都内には12カ所の献血ルームがあります。

献血ルーム紹介（日本赤十字社ホームページ）

https://www.bs.jrc.or.jp/ktks/tokyo/place/ml_01_00_index.html





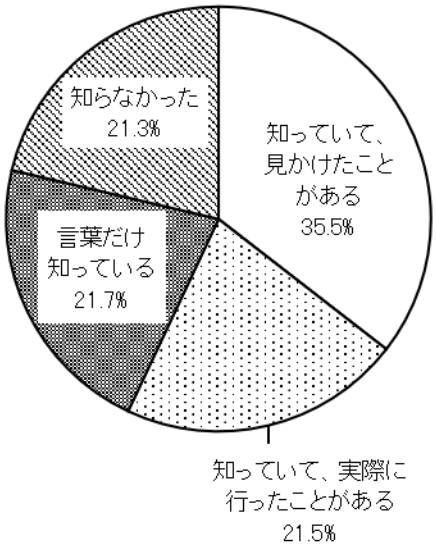
受付（日本赤十字社）



採血前検査と採血室　（日本赤十字社）

Q７　東京都内に献血ルームがあることを知っていますか。

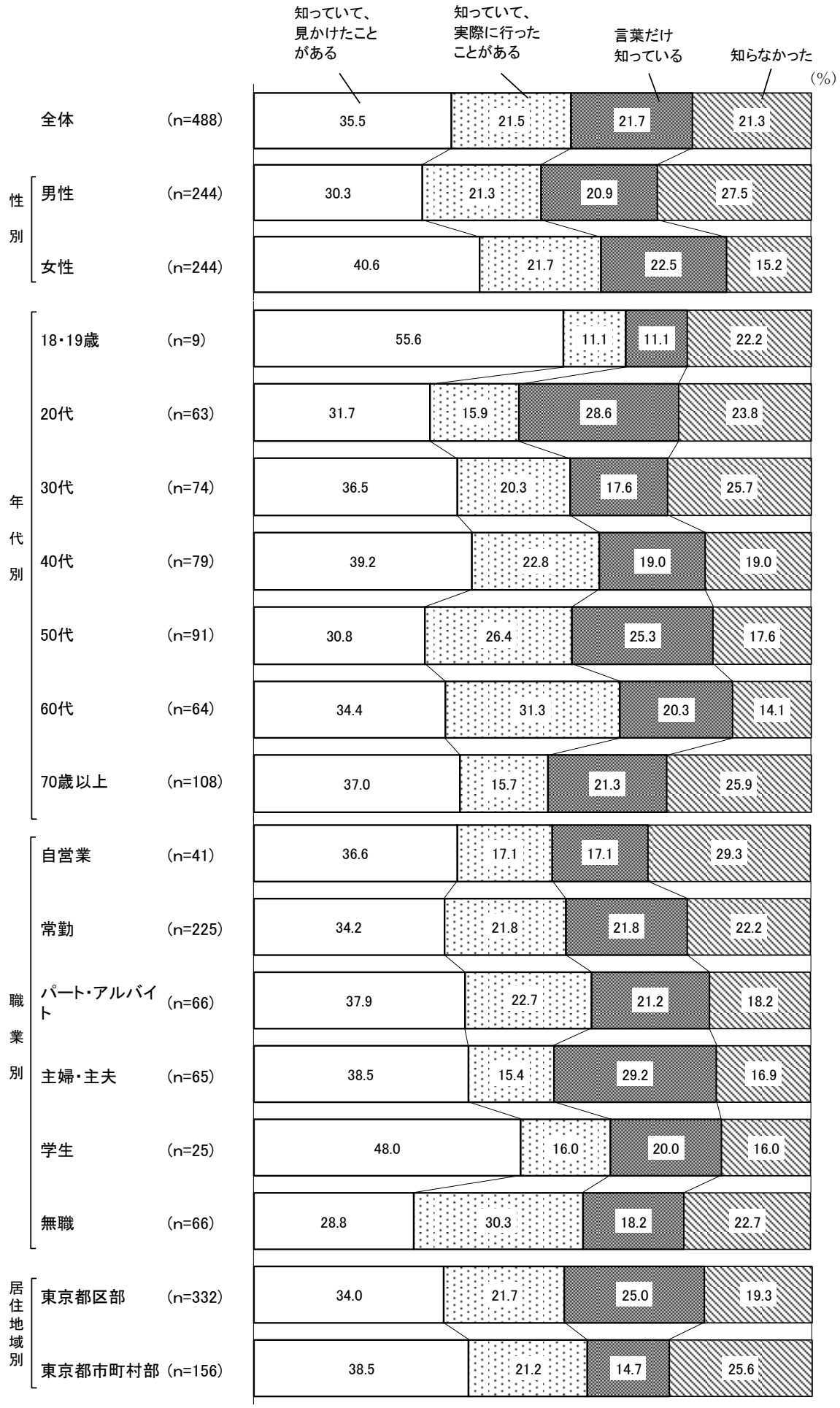
(n=488)



【調査結果の概要】

東京都内に献血ルームがあることを知っているか聞いたところ、『知っている（計）』（78.7%）（「知っていて、見かけたことがある」（35.5%）、「言葉だけ知っている」（21.7%）、「知っていて、実際に行ったことがある」（21.5%））が８割近くだった。一方、『知らなかった』（21.3%）は、２割を超えていた。

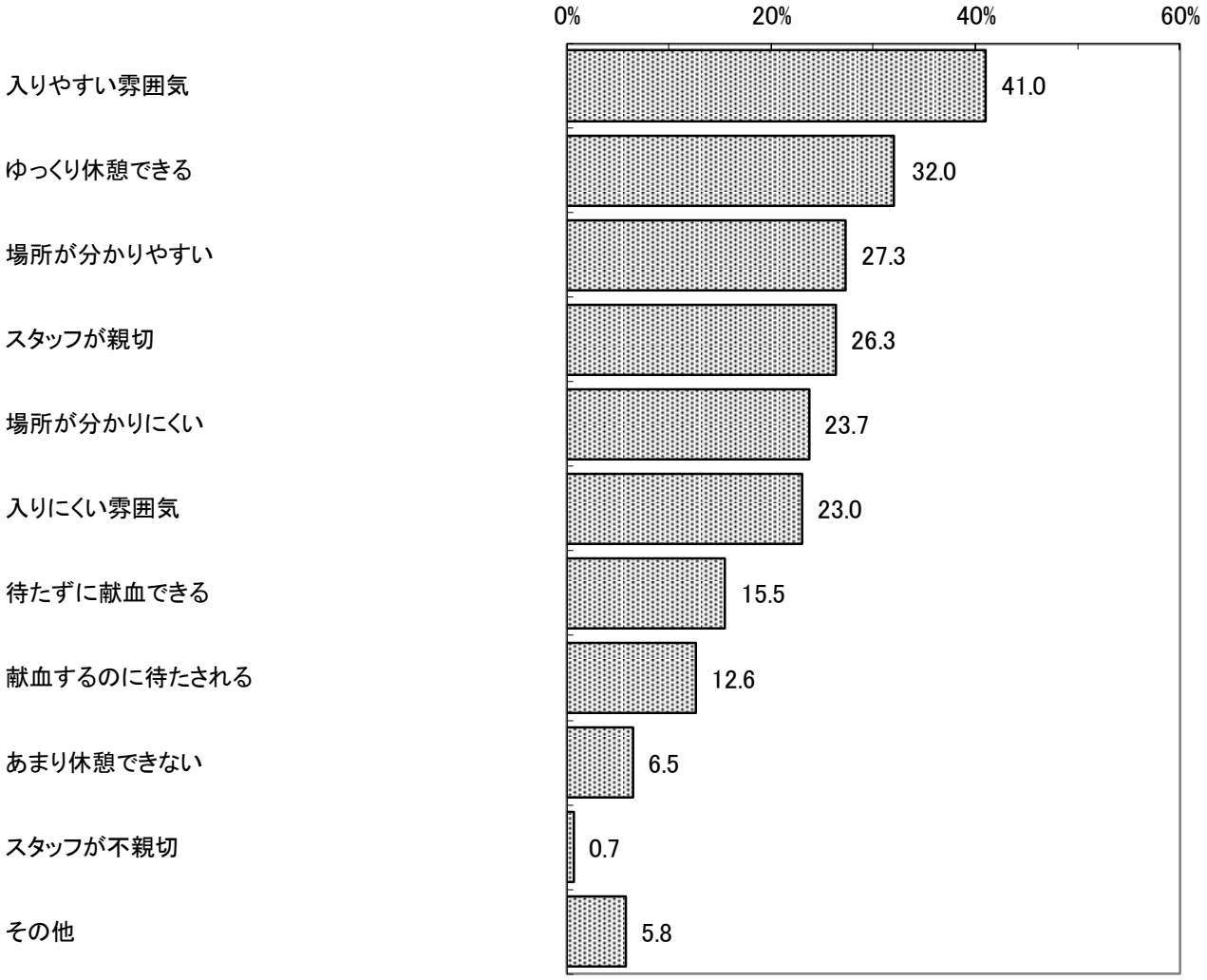
◎献血ルームの認知度（属性別）



献血ルームの印象

Ｑ８　Ｑ７で「知っていて、見かけたことがある」、「知っていて、実際に行ったことがある」と答えた方に伺います。献血ルームについて、どのような印象をお持ちですか。次の中からいくつでも選んでください。対になる選択肢については、より強い印象のものをお選びください。

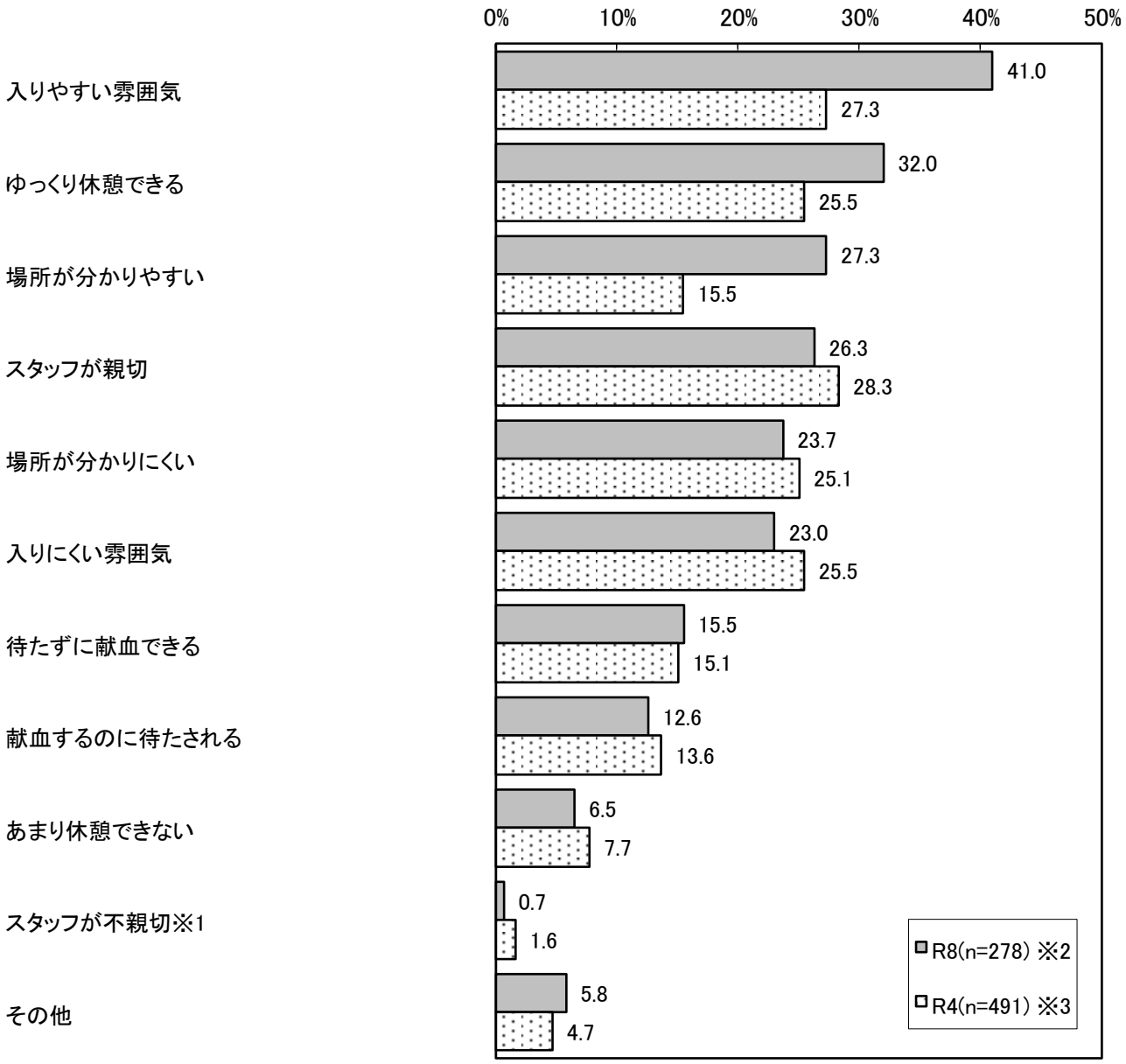
MA(n=278)



【調査結果の概要】

Ｑ７で「知っていて、見かけたことがある」、「知っていて、実際に行ったことがある」と答えた方278人に献血ルームの印象を聞いたところ、「入りやすい雰囲気」（41.0%）が４割を超え最も高く、以下、「ゆっくり休憩できる」（32.0%）、「場所が分かりやすい」（27.3%）などと続いている。

◎前回調査との比較　＜前回：令和４年９月実施「歯と口の健康」と「献血への意識」＞



※1　令和４年度は「スタッフが不愛想」で集計

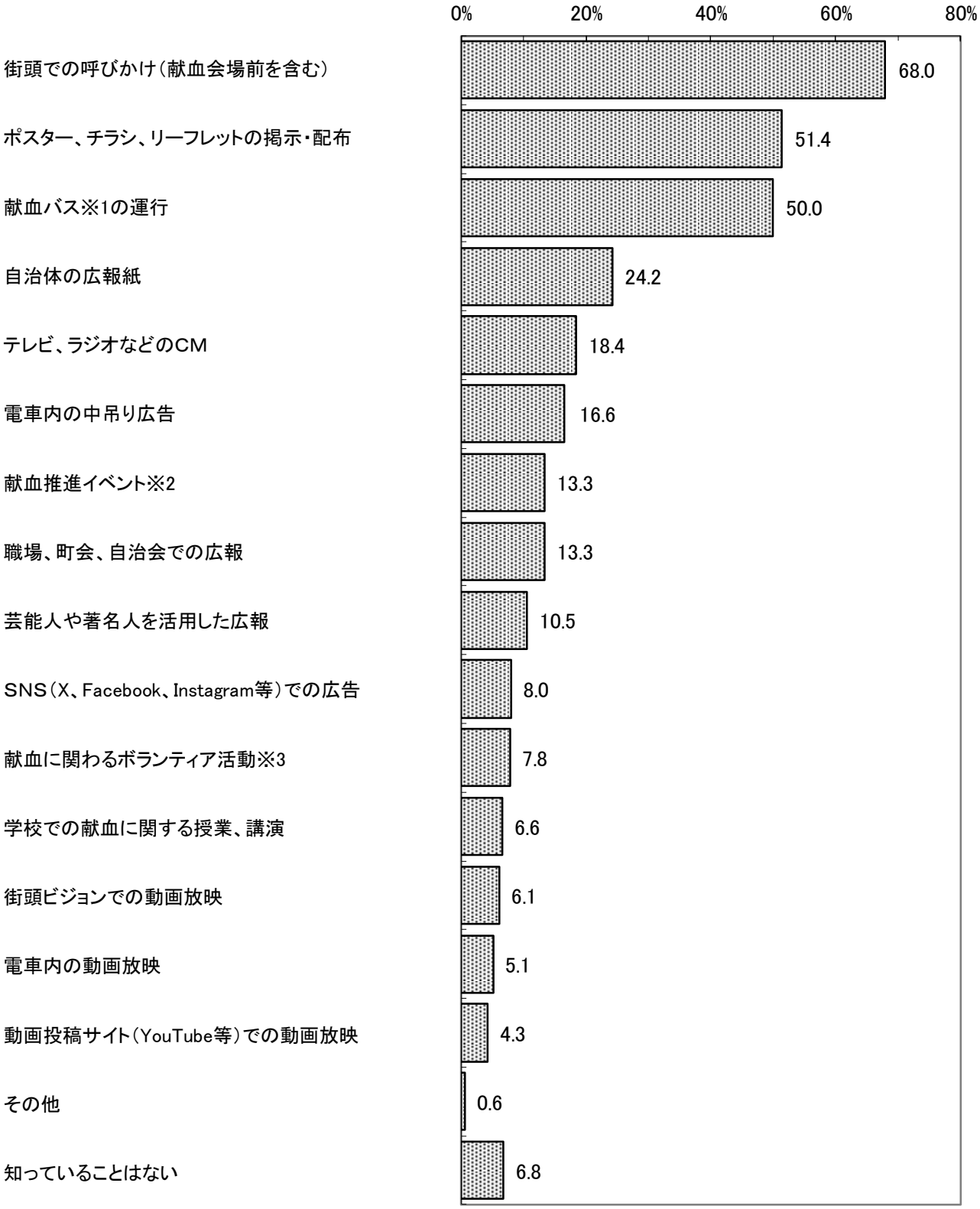
※2　令和８年度は東京都内に献血ルームがあることを「知っていて、見かけたことがある」「知っていて、実際に行ったことがある」と回答した方（278人）を対象にアンケート集計

※3　令和４年度は回答者全員（491人）を対象にアンケート集計

献血の広報・普及啓発活動の認知度

東京都は、年３回（夏・冬・春）の献血キャンペーン期間に、ポスター・リーフレットの配布・掲出、東京都SNS(X、LINE 等)での発信、SNS 広告動画の放映等、広報・普及啓発活動を行っています。

Ｑ９　献血に関する広報・普及啓発活動について知っていることを、次の中からいくつでも選んでください。　MA(n=488)



※１　献血バス…車内で採血ができる専用バス、
　　移動採血車のこと
※２　献血推進イベント…世界献血者デー、愛の血液助け合い運動、
　　はたちの献血キャンペーンなど
※３　ボランティア活動…献血バス、献血ルーム前での献血の呼びかけ、
　　献血会場における献血者の案内など

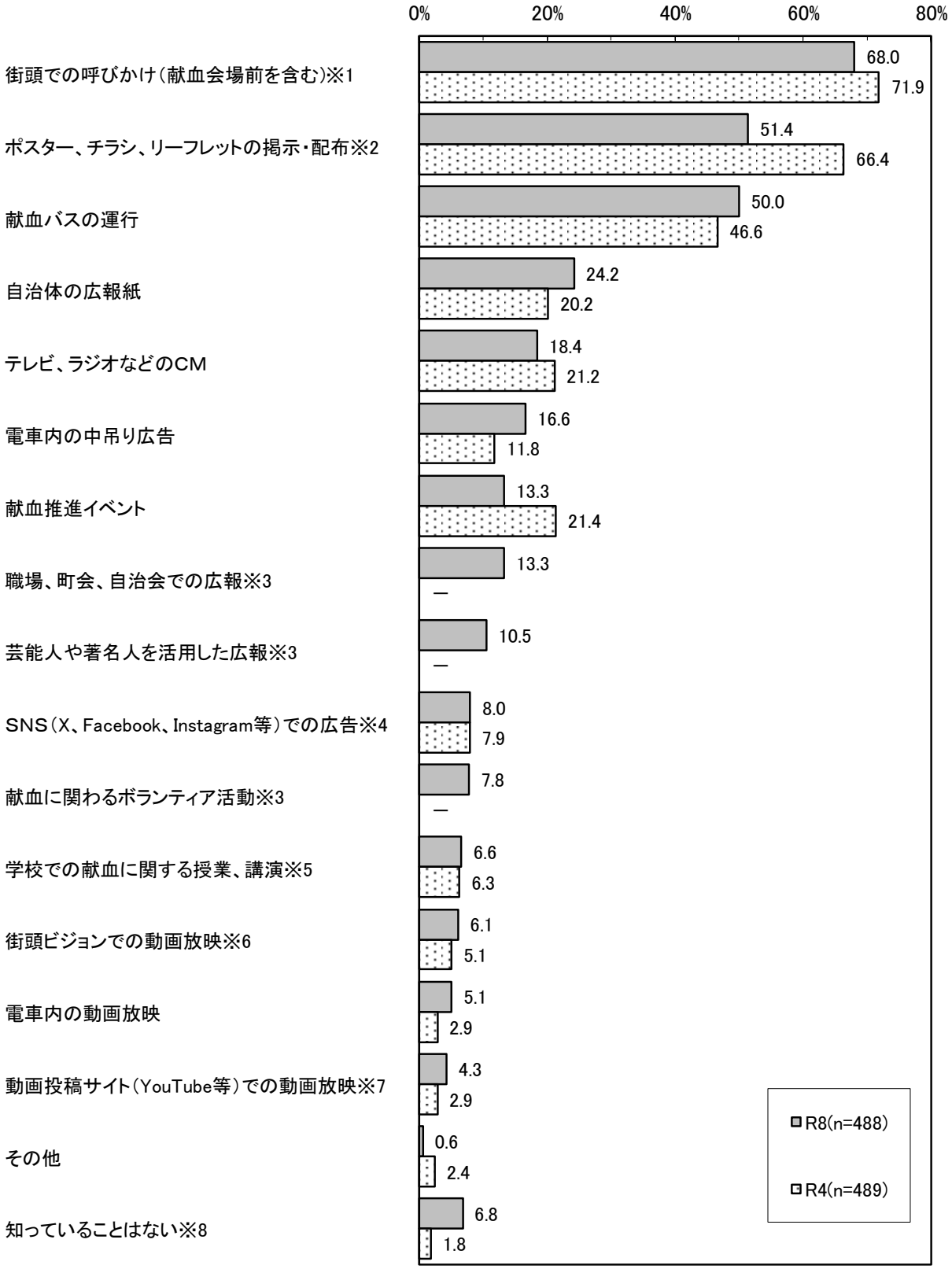


献血バス（日本赤十字社）

【調査結果の概要】

献血に関する広報・普及啓発活動について知っていることを聞いたところ、「街頭での呼びかけ（献血会場前を含む）」（68.0％）が７割近くと最も高く、以下、「ポスター、チラシ、リーフレットの掲示・配布」（51.4％）、「献血バスの運行」（50.0％）などと続いている。

◎前回調査との比較　＜前回：令和４年９月実施「歯と口の健康」と「献血への意識」＞



※1　令和4年度は「街頭での呼びかけ」で集計
※2　令和4年度は「ポスター」で集計
※3　令和4年度は選択肢なし
※4　令和4年度は「SNS（Twitter、Facebook、Instagram等）を用いた広告」で集計
※5　令和4年度は「学校での献血についての授業・講演」で集計
※6　令和4年度は「街頭ビジョンなどでの動画放映」で集計
※7　令和4年度は「動画投稿サイト等での動画放映」で集計
※8　令和4年度は「見聞きしたことがない、覚えていない」で集計

「愛の血液助け合い運動」ポスターの認知度

「愛の血液助け合い運動」キャンペーン

東京都では、例年7月1日から7月31日まで、夏の献血キャンペーン「愛の血液助け合い運動」を実施しています。

血液は人工的に造ることができず、長期間の保存もできません。病気やけがで治療を必要としている方々に、血液製剤を届けるためには多くの方のご協力が欠かせません。安全な血液製剤を安定的に届けるために、皆様の一層のご協力をお願いいたします。※この運動は厚生労働省、都道府県及び日本赤十字社により全国一斉に行われます。

7月は「愛の血液助け合い運動」月間です

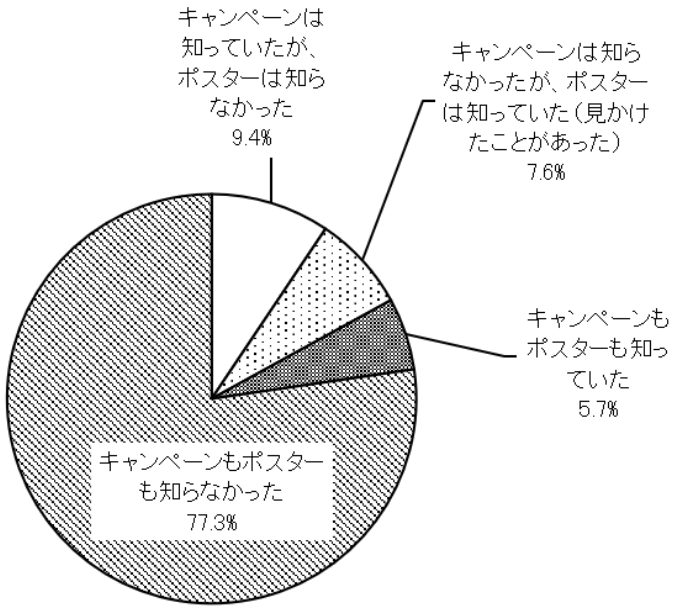
https://www.metro.tokyo.lg.jp/information/press/2026/06/2026062405



「愛の血液助け合い」ポスター

Q10　「愛の血液助け合い運動」キャンペーンやポスターを知っていますか。

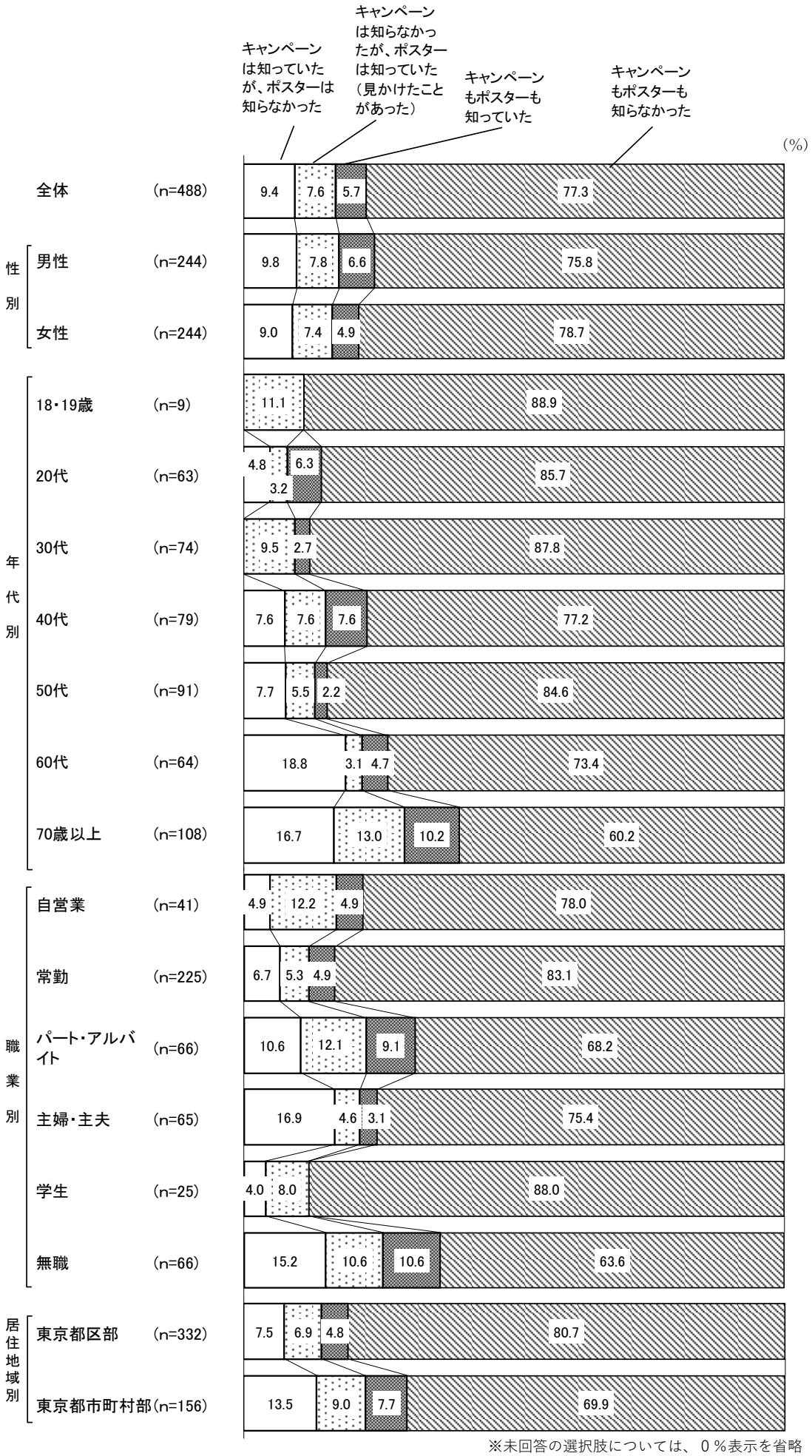
(n=488)



【調査結果の概要】

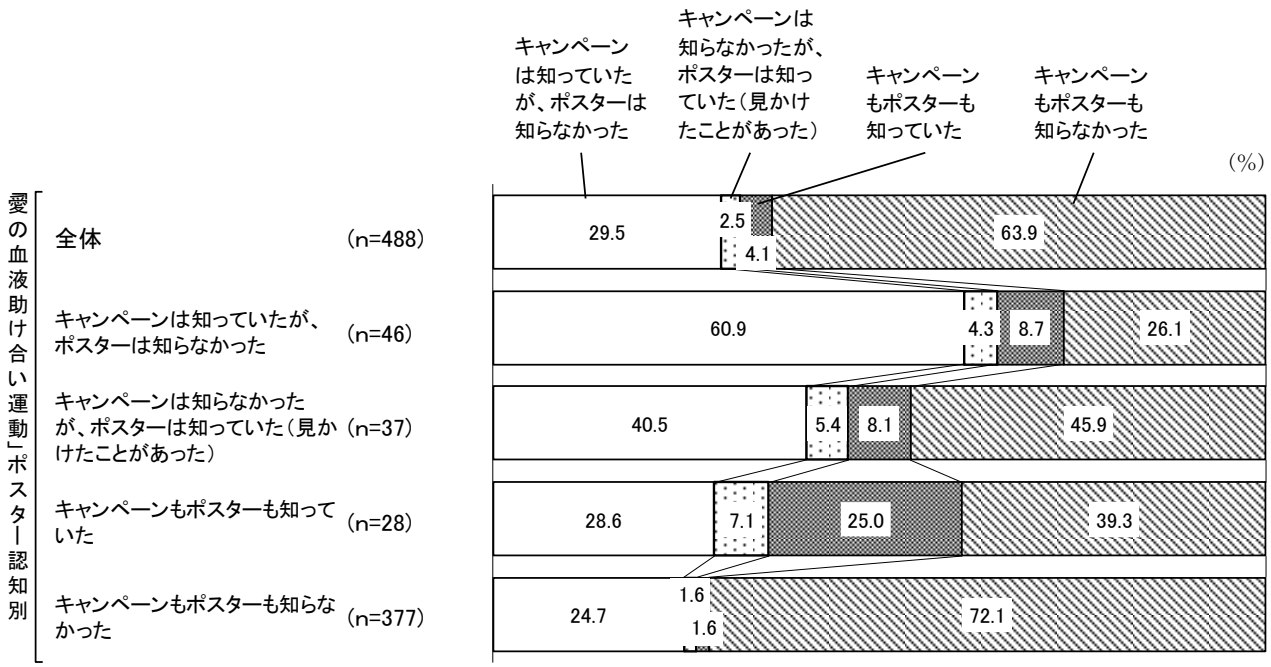
「愛の血液助け合い運動」キャンペーンやポスターを知っているか聞いたところ、「キャンペーンもポスターも知らなかった」(77.3%)が８割近くと最も高く、以下、「キャンペーンは知っていたが、ポスターは知らなかった」(9.4%)、「キャンペーンは知らなかったが、ポスターは知っていた（見かけたことがあった)」(7.6%) などと続いている。

◎「愛の血液助け合い運動」ポスターの認知度（属性別）



※未回答の選択肢については、０％表示を省略

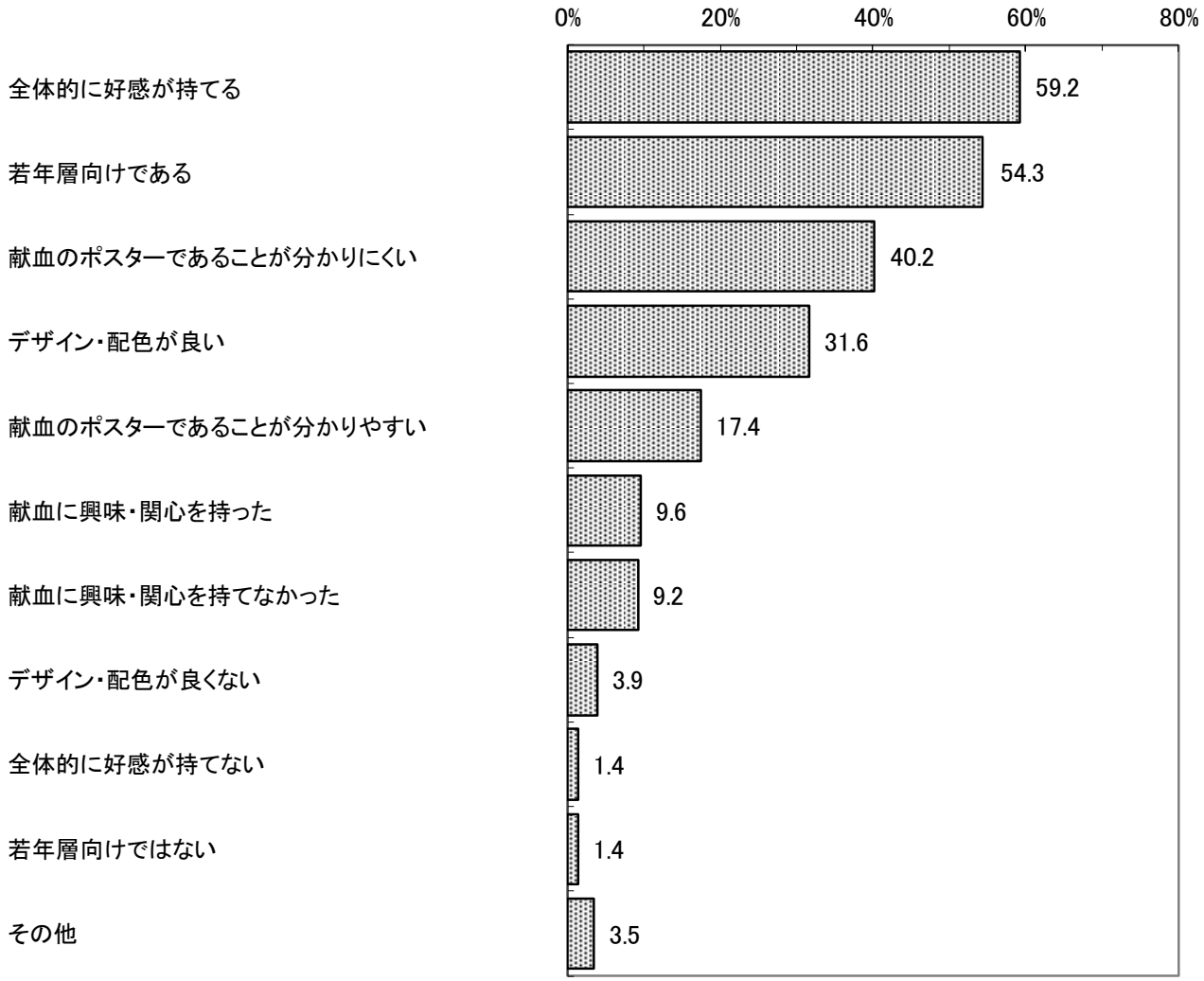
◎「愛の血液助け合い運動」ポスターの認知度（「はたちの献血」ポスターの認知度別：Ｑ１２）



「愛の血液助け合い運動」ポスターの印象

Q11　「愛の血液助け合い運動」キャンペーンのポスターをどう思いますか。次の中からいくつでも選んでください。対になる選択肢については、より強い印象のものをお選びください。

MA（n=488）



【調査結果の概要】

「愛の血液助け合い運動」キャンペーンのポスターをどう思うか聞いたところ、「全体的に好感が持てる」（59.2%）が６割近くと最も高く、以下、「若年層向けである」（54.3%）、「献血のポスターであることが分かりにくい」（40.2%）などと続いている。

「はたちの献血」ポスターの認知度

「はたちの献血」キャンペーン

東京都では、1 月から 2 月にかけて、「はたち」（二十歳）を迎える若者を中心に、広く都民の皆さんに向けて「はたちの献血」キャンペーン※を実施しています。

※キャンペーンは厚生労働省、都道府県及び日本赤十字社により全国一斉に行われます。

今、献血を支えているのは、40 代・50 代。献血には、69 歳までの年齢制限があるため、若い世代の皆さんのご協力が欠かせません。この機会に、ぜひ献血へのご協力をお願いいたします。

1 月・2 月は「はたちの献血」キャンペーン期間

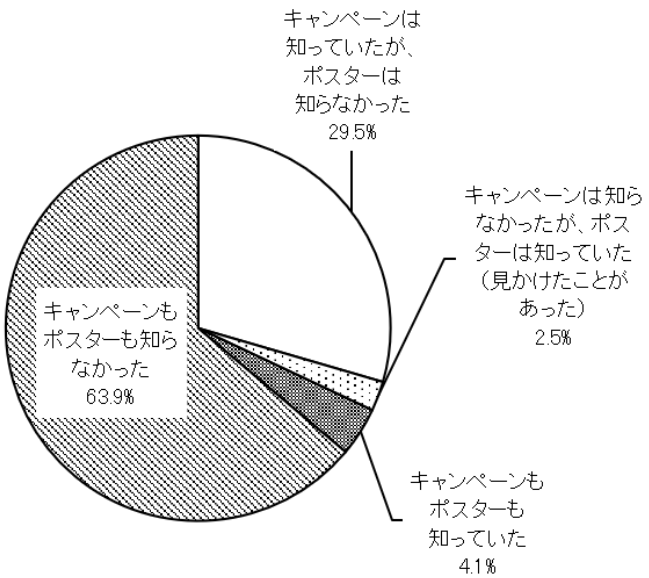
https://www.metro.tokyo.lg.jp/information/press/2025/12/2025122605



「はたちの献血」ポスター

Q12　「はたちの献血」キャンペーンやポスターを知っていますか。

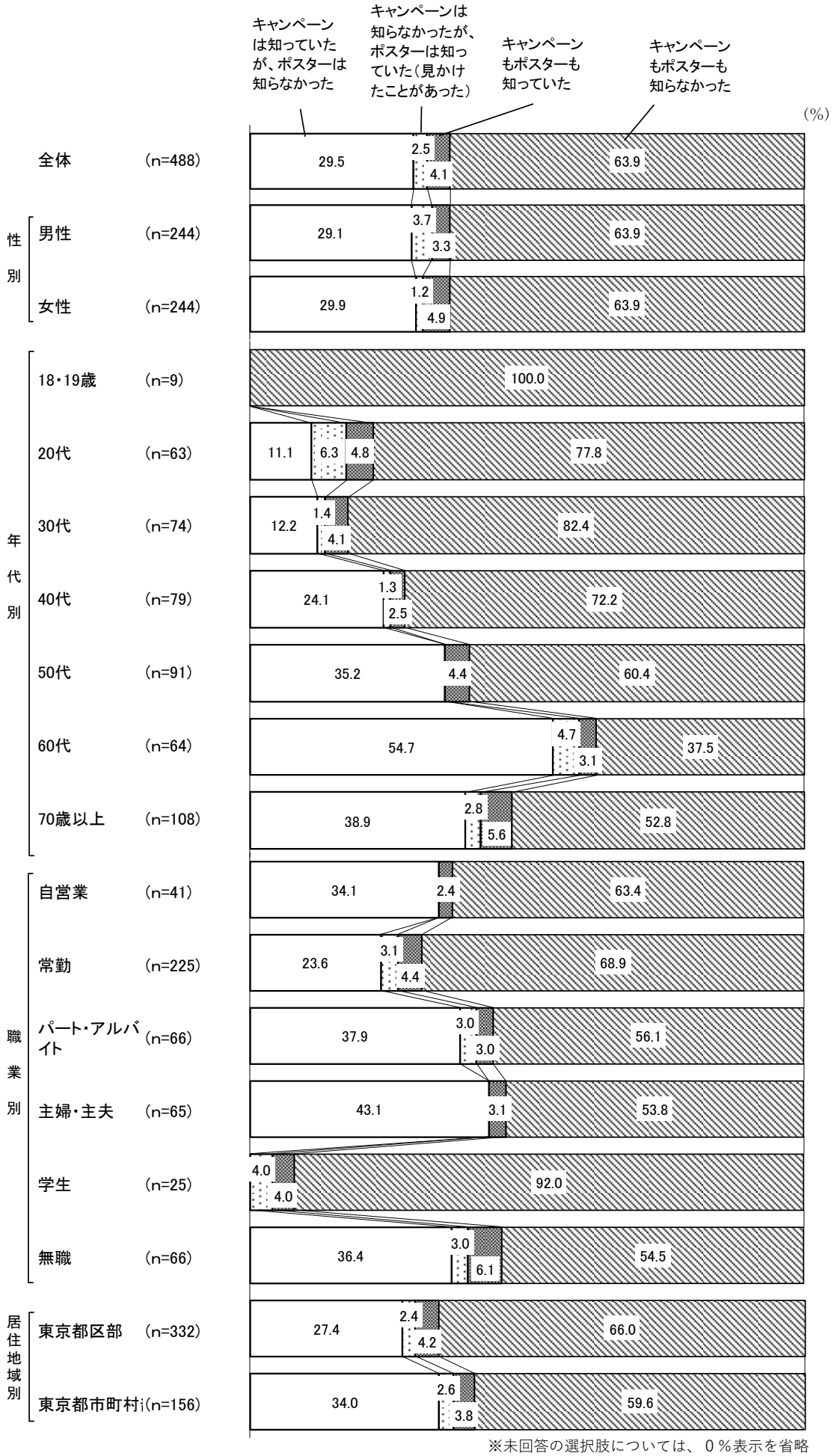
(n=488)



【調査結果の概要】

「はたちの献血」キャンペーンやポスターを知っているか聞いたところ、「キャンペーンもポスターも知らなかった」（63.9%）が６割を超え最も高く、以下、「キャンペーンは知っていたが、ポスターは知らなかった」（29.5%）、「キャンペーンもポスターも知っていた」（4.1%）などと続いている。

◎「はたちの献血」ポスターの認知度（属性別）

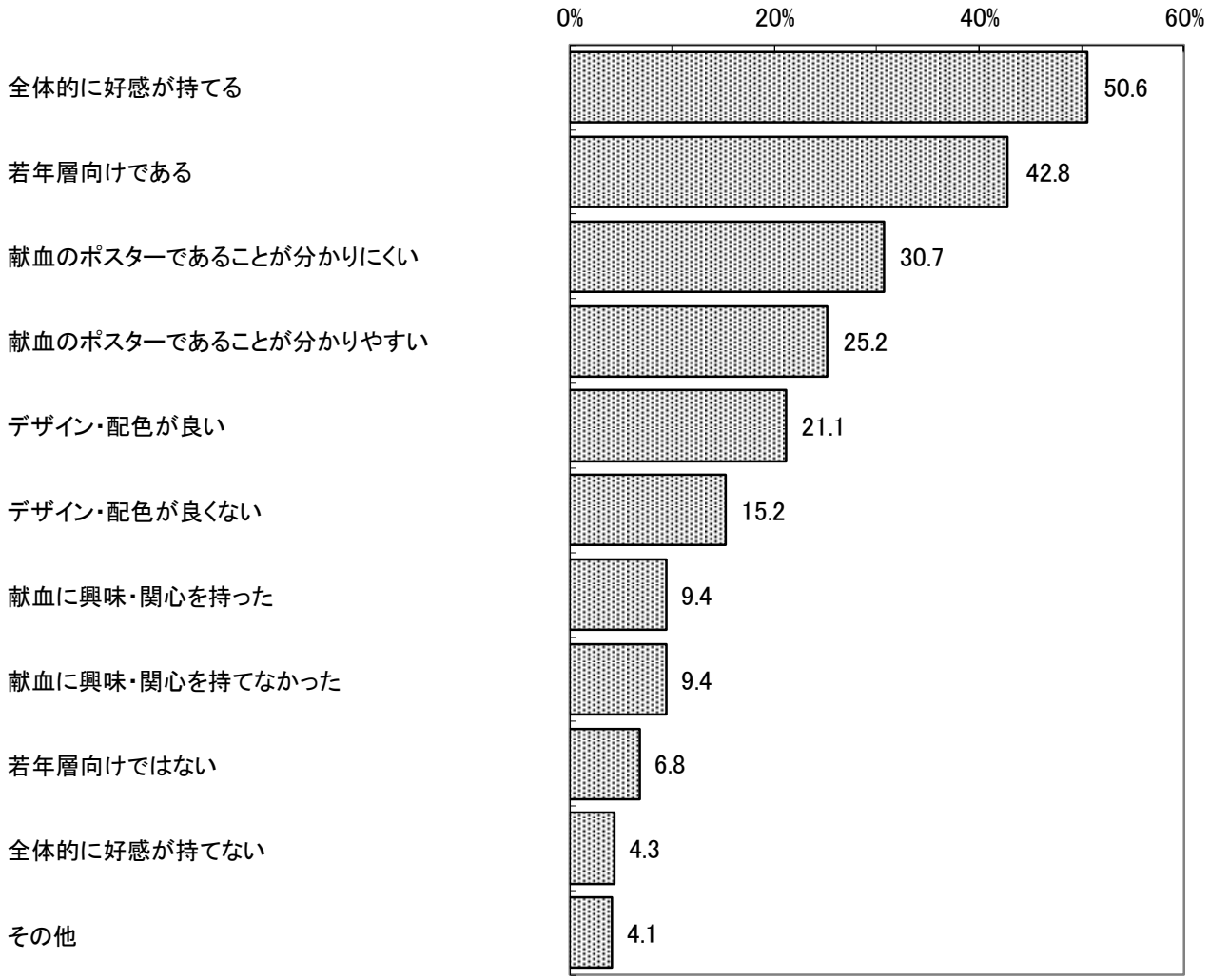


※未回答の選択肢については、０％表示を省略

「はたちの献血」ポスターの印象

Q13　「はたちの献血」キャンペーンのポスターをどう思いますか。次の中からいくつでも選んでください。対になる選択肢については、より強い印象のものをお選びください。

MA（n=488）



【調査結果の概要】

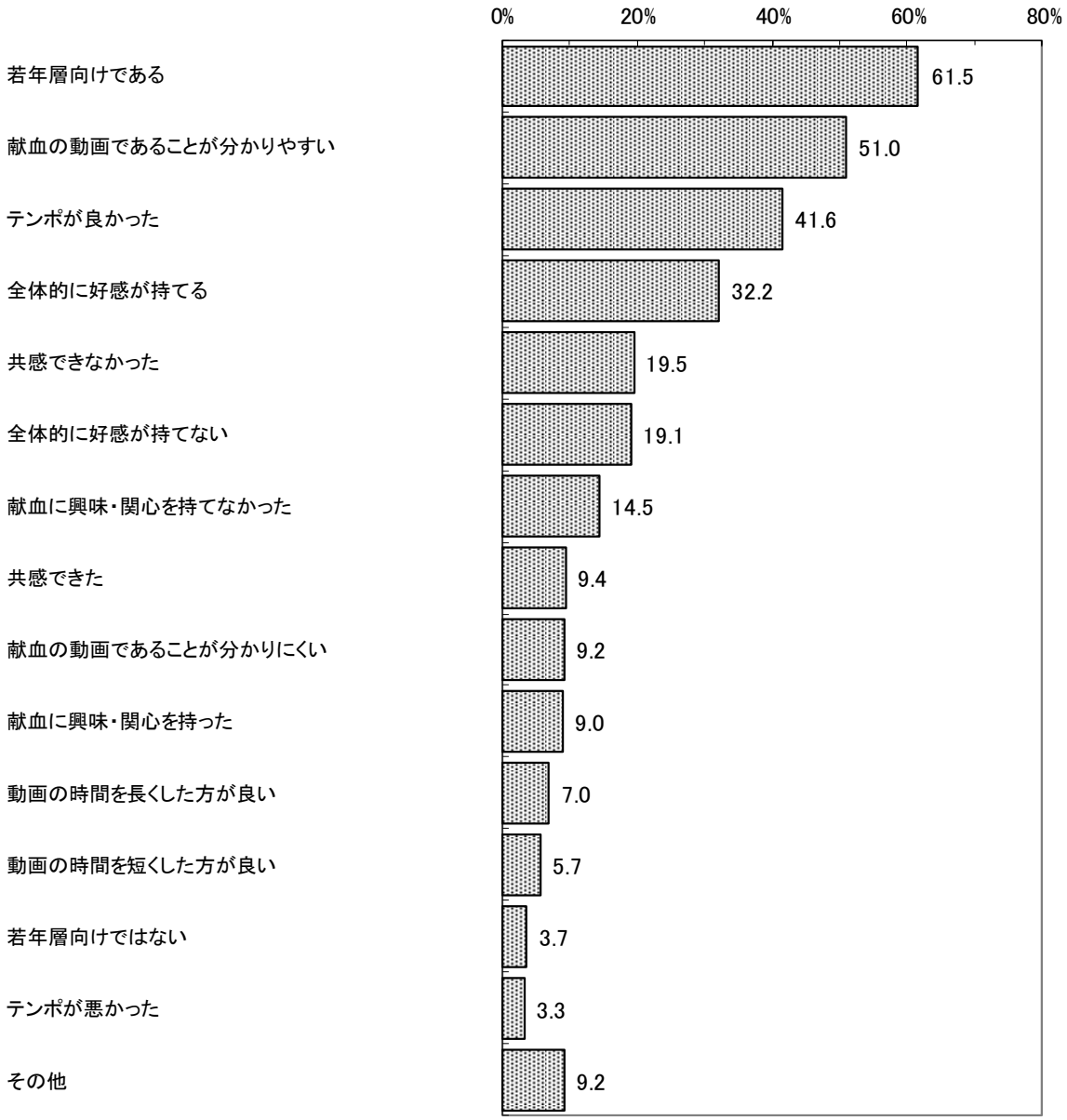
「はたちの献血」キャンペーンのポスターをどう思うか聞いたところ、「全体的に好感が持てる」（50.6%）が約５割と最も高く、以下、「若年層向けである」（42.8%）、「献血のポスターであることが分かりにくい」（30.7%）などと続いている。

「はたちの献血」動画の印象

Q14　東京都では「はたちの献血」キャンペーンにあわせて、動画を作成しました。以下の動画を視聴してどう思いましたか。次の中からいくつでも選んでください。対になる選択肢については、より強い印象のものをお選びください。

MA（n=488）

■動画「気持ちをアゲよっ！行こっか！献血」：
https://tokyodouga.metro.tokyo.lg.jp/k0mzcq5xude.html



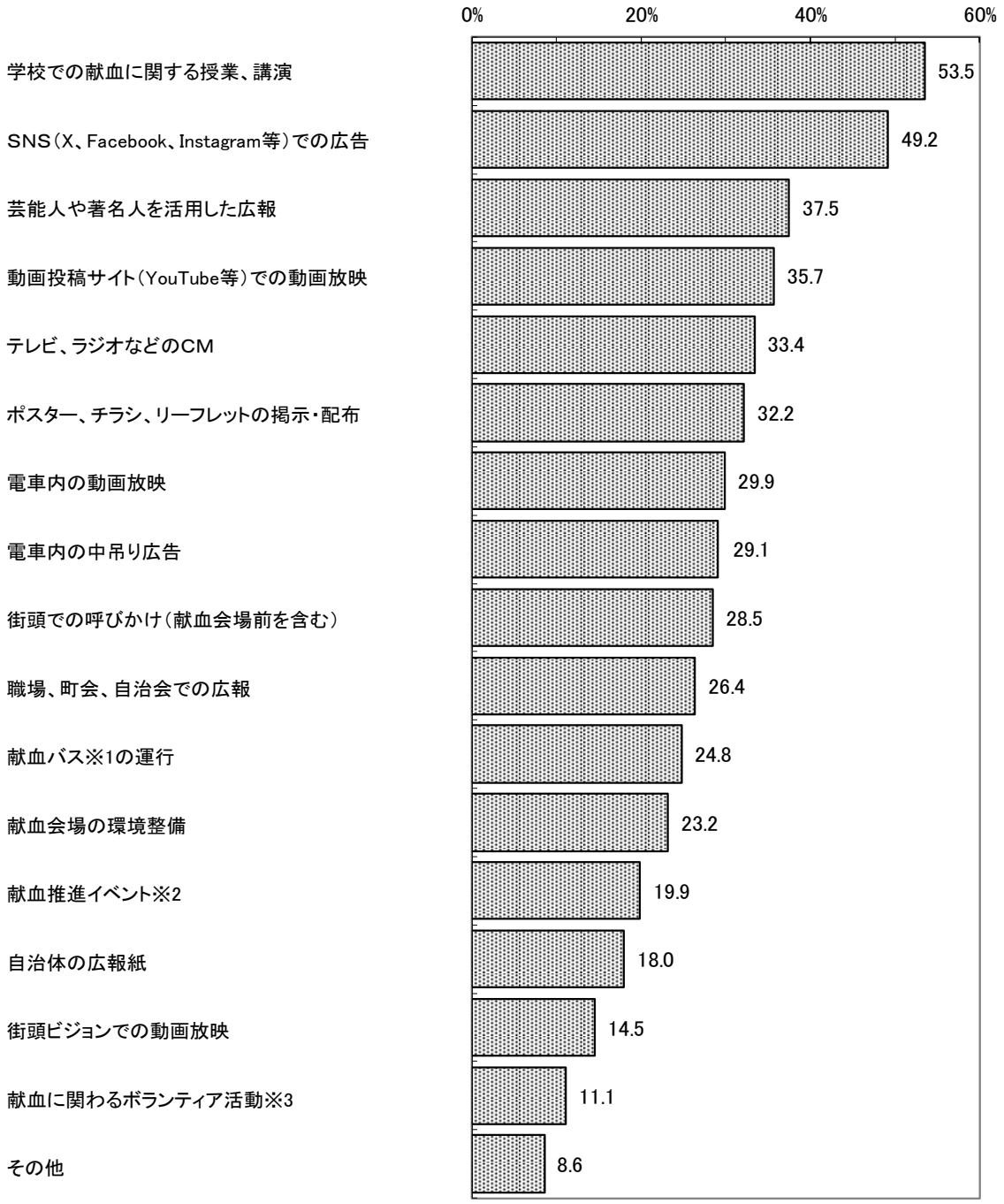
【調査結果の概要】

「はたちの献血」の動画を視聴してどう思ったか聞いたところ、「若年層向けである」（61.5%）が６割を超え最も高く、以下、「献血の動画であることが分かりやすい」（51.0%）、「テンポが良かった」（41.6%）などと続いている。

効果的な献血の広報・普及啓発活動

Q15　献血に興味・関心を持つには、どのような広報・普及啓発活動がより効果的だと思いますか。
次の中からいくつでも選んでください。

MA(n=488)



※1　献血バス…車内で採血ができる専用バス、移動採血車のこと

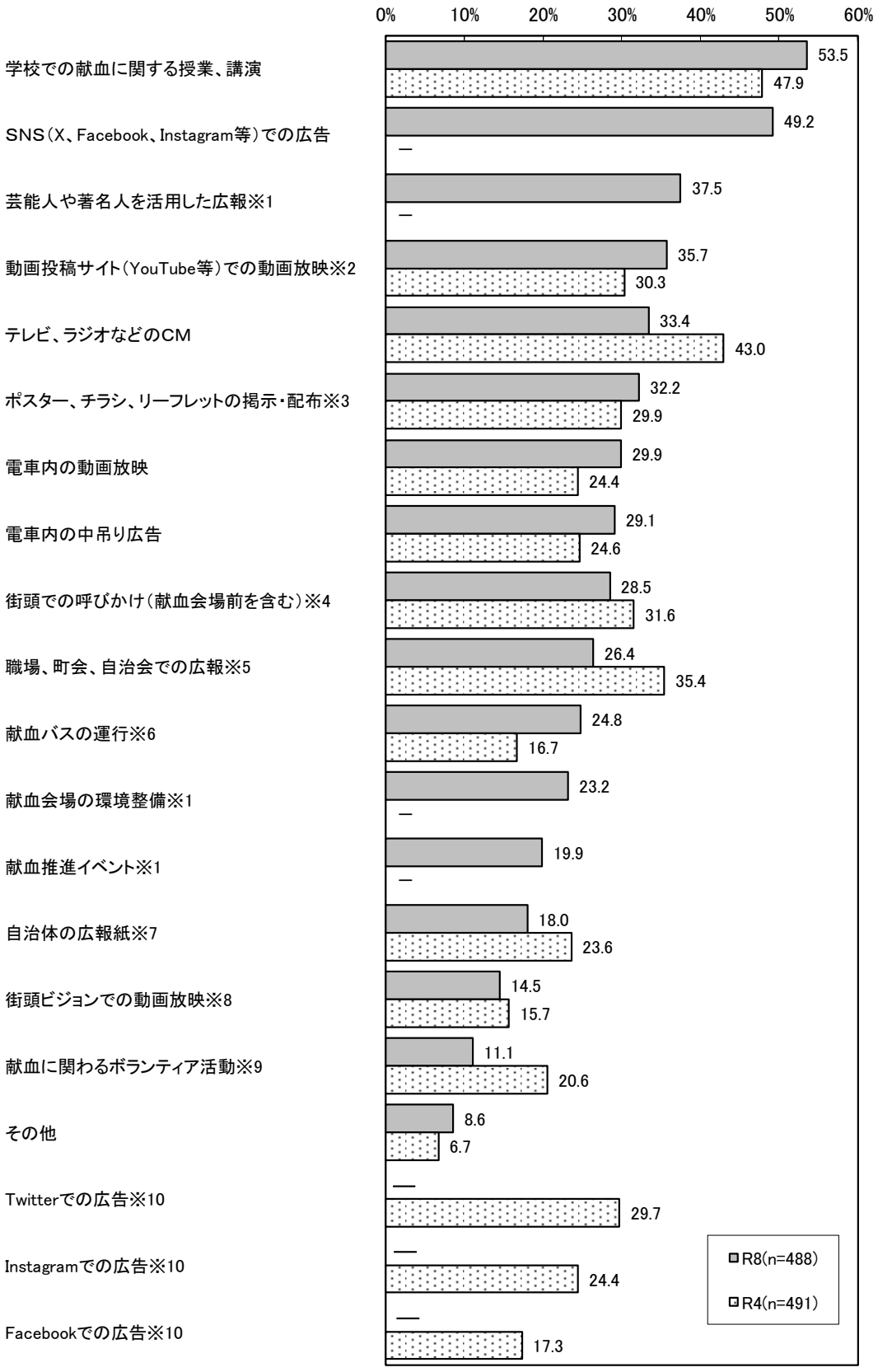
※2　献血推進イベント…世界献血者デー、愛の血液助け合い運動、はたちの献血キャンペーンなど

※3　ボランティア活動…献血バス、献血ルーム前での献血の呼びかけ、献血会場における献血者の案内など

【調査結果の概要】

献血に興味・関心を持つには、どのような広報・普及啓発活動がより効果的か聞いたところ、「学校での献血に関する授業、講演」(53.5%)が5割を超え最も高く、以下、「SNS(X、Facebook、Instagram等)での広告」(49.2%)、「芸能人や著名人を活用した広報」(37.5%)などと続いている。

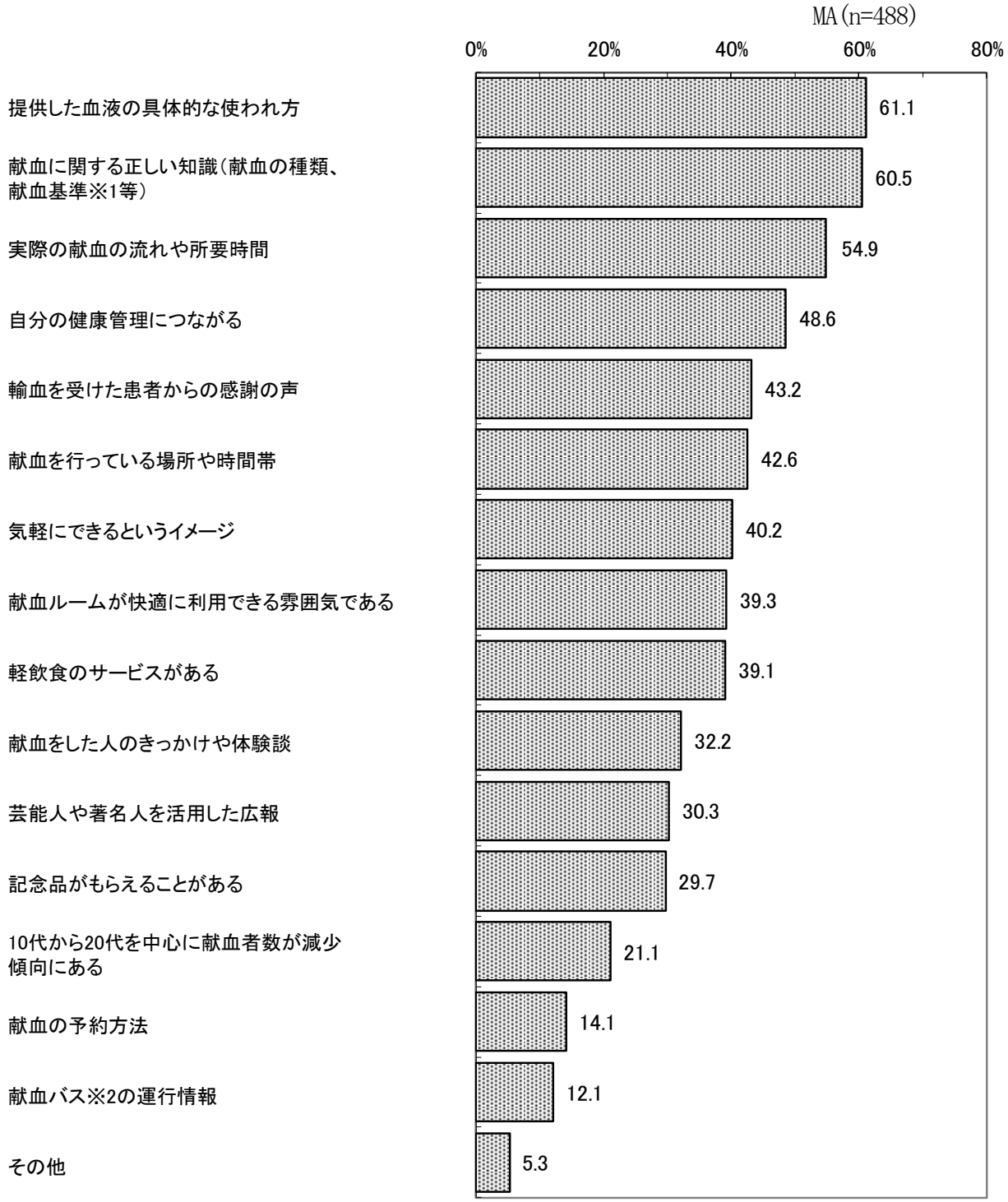
◎前回調査との比較　＜前回：令和４年９月実施「歯と口の健康」と「献血への意識」＞



※1　令和4年度は選択肢なし
※2　令和4年度は「動画投稿サイト（YouTube、TikTok等）での動画放映」で集計
※3　令和4年度は「ポスターの掲示」で集計
※4　令和4年度は「街頭での呼びかけ」で集計
※5　令和4年度は「職場での広報」で集計
※6　令和4年度は「献血バスの増便」で集計
※7　令和4年度は「自治体の広報誌に掲載」で集計
※8　令和4年度は「街頭ビジョンなどでの動画放映」で集計
※9　令和4年度は「献血に関わるボランティア活動などの体験支援」で集計
※10　令和4年度の選択肢

効果的な献血の情報発信

Q16　どのような情報を発信すれば、献血の興味・関心を持ってもらえると思いますか。より効果的だと思うことを、次の中からいくつでも選んでください。



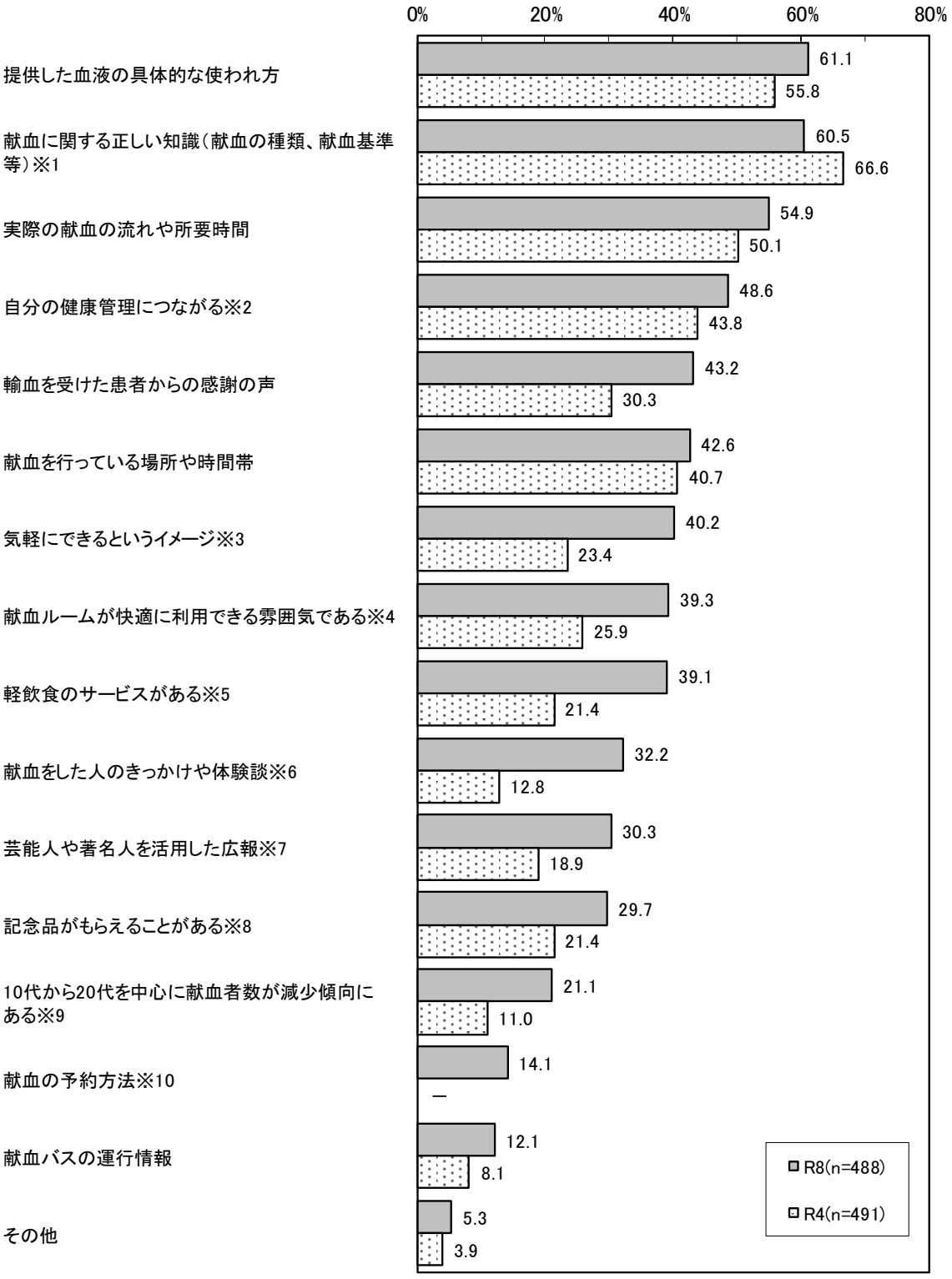
※１　献血基準（日本赤十字社ホームページ）
https://www.jrc.or.jp/donation/about/terms/

※２　献血バス…車内で採血ができる専用バス、移動採血車のこと

【調査結果の概要】

どのような情報を発信すれば、献血の興味・関心を持ってもらえるか聞いたところ、「提供した血液の具体的な使われ方」（61.1%）が６割を超え最も高く、以下、「献血に関する正しい知識（献血の種類、献血基準等）」（60.5%）、「実際の献血の流れや所要時間」（54.9%）などと続いている。

◎前回調査との比較　＜前回：令和４年９月実施「歯と口の健康」と「献血への意識」＞

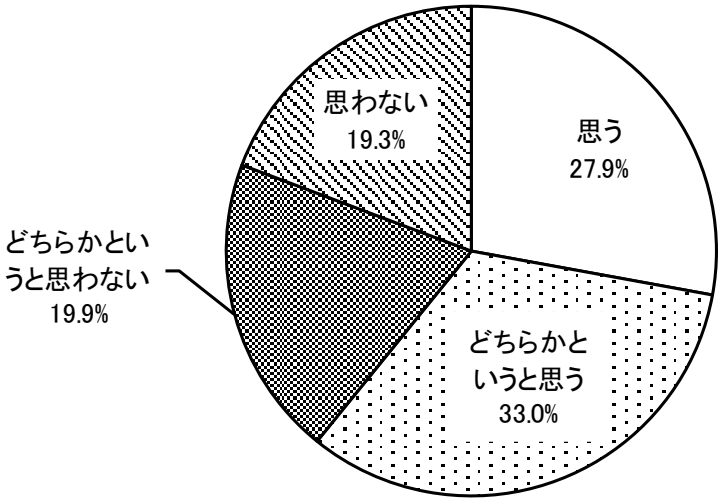


※1　令和4年度は「献血に関する正しい知識（献血の種類・条件等）」で集計
※2　令和4年度は「献血が自分の健康管理に役立つこと」で集計
※3　令和4年度は「献血は気軽にできるというイメージ」で集計
※4　令和4年度は「献血ルームが快適に利用できる雰囲気であること」で集計
※5　令和4年度は「献血者に軽飲食や記念品の提供があること」で集計
※6　令和4年度は「献血をした人のきっかけや感想」で集計
※7　令和4年度は「芸能人や著名人からの呼びかけ」で集計
※8　令和4年度は「献血者に軽飲食や記念品の提供があること」で集計
※9　令和4年度は「若者を中心に献血者数が減少していること」で集計
※10　令和4年度は選択肢なし

今後の献血の意向

Q17　今後、献血をしようと思いますか。

(n=488)

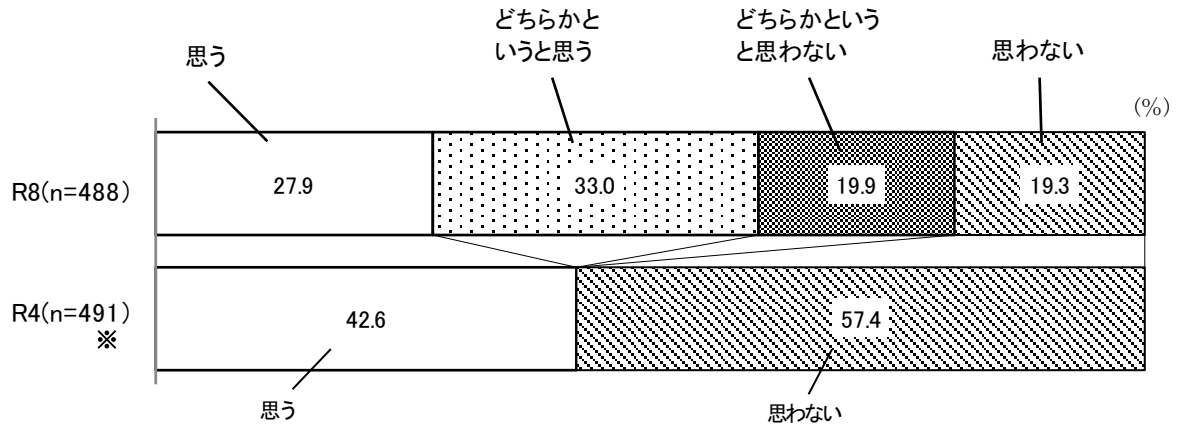


【調査結果の概要】

今後、献血をしようと思うか聞いたところ、献血をしようと『思う（計）』(60.9%)（「どちらかというと思う」(33.0%)、「思う」(27.9%)）が、約６割だった。

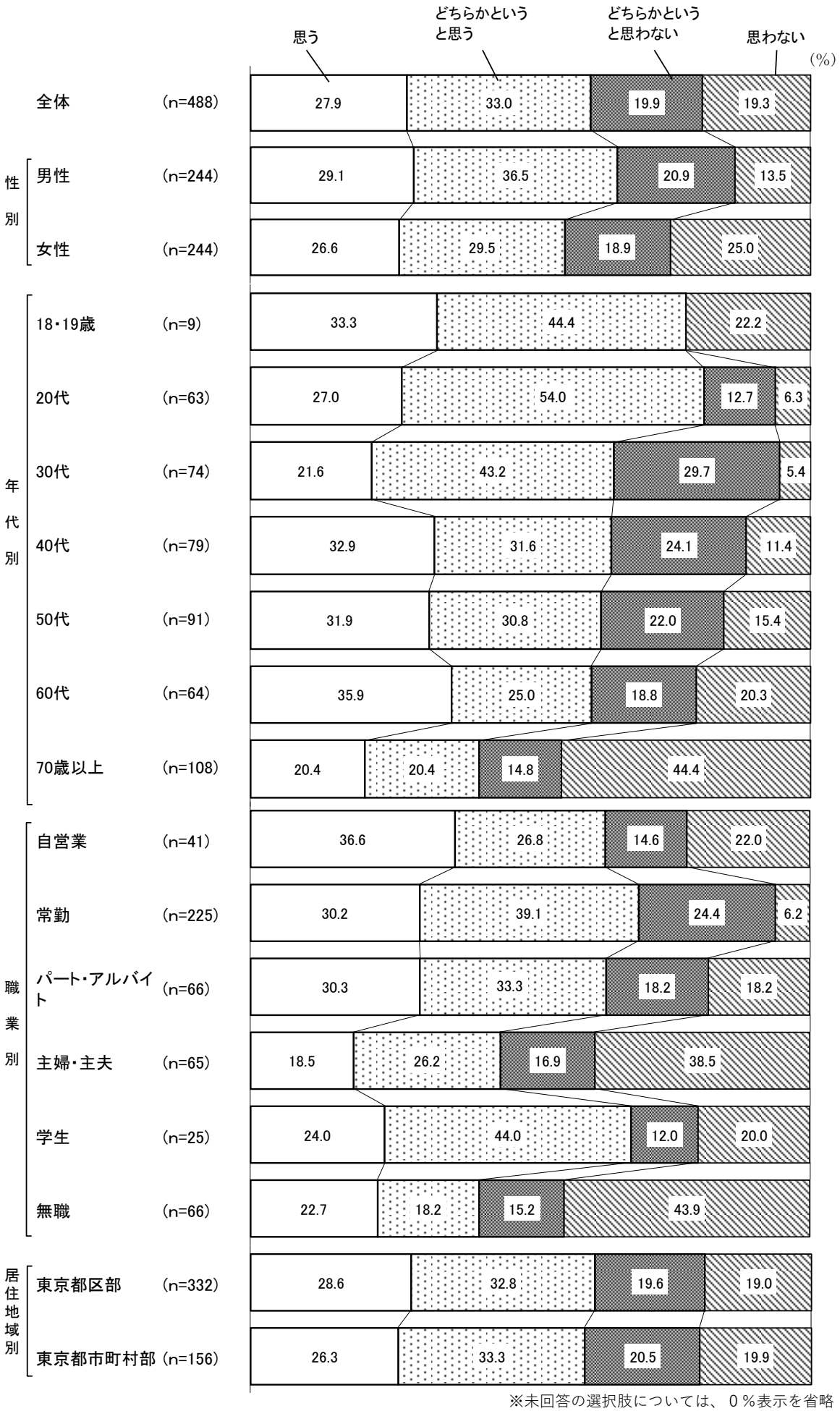
『思わない（計）』(39.2%)（「どちらかというと思わない」(19.9%)、「思わない」(19.3%)）は、４割近くだった。

◎前回調査との比較　＜前回：令和４年９月実施「歯と口の健康」と「献血への意識」＞



※　令和4年度は「思う」「思わない」の2選択肢で集計

◎今後の献血の意向（属性別）

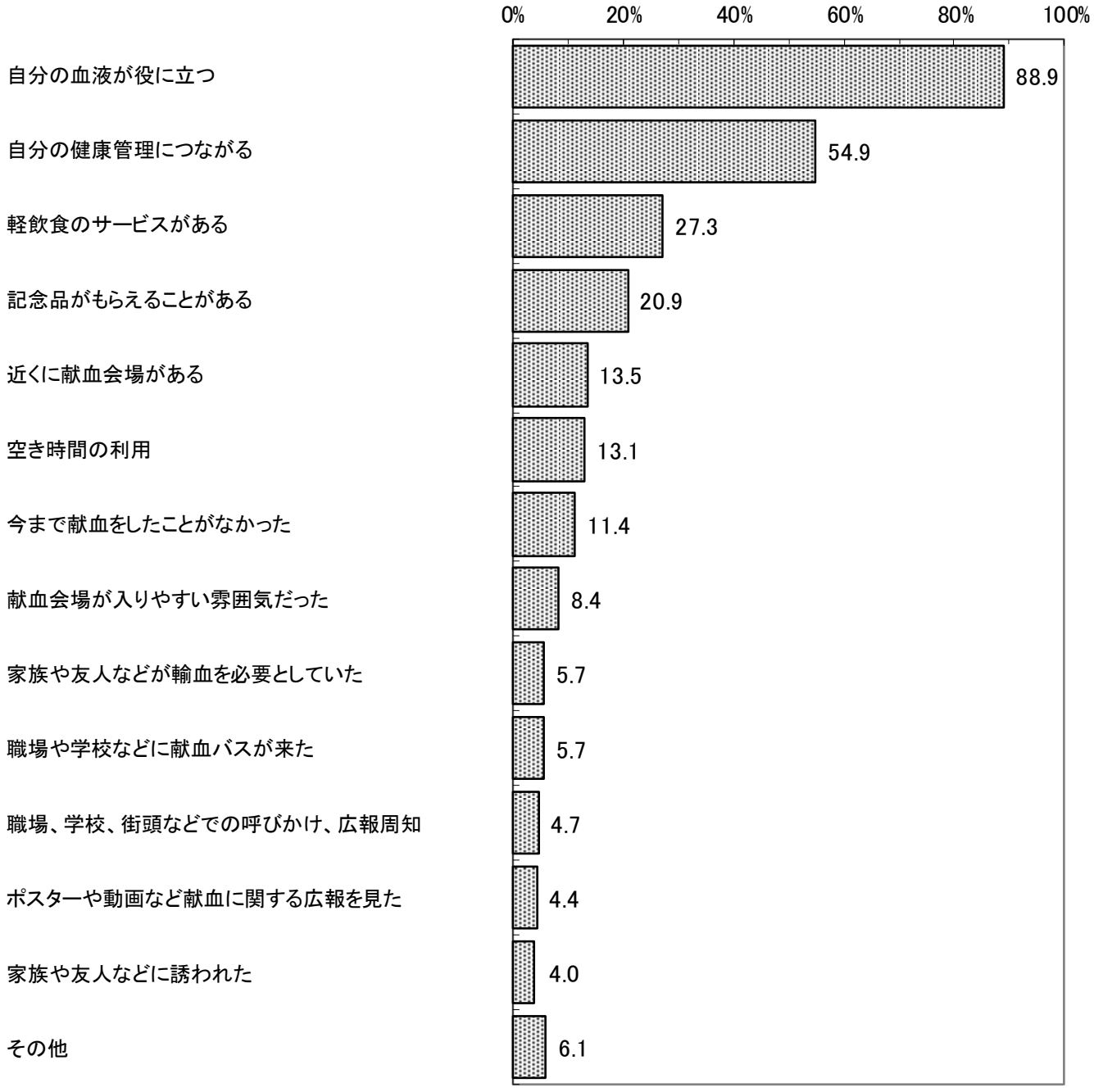


※未回答の選択肢については、０％表示を省略

今後献血をしようと思う理由

Q18　Q17で「思う」、「どちらかというと思う」と答えた方に伺います。今後献血をしようと思う理由は何ですか。次の中から５つまで選んでください。

5MA(n=297)



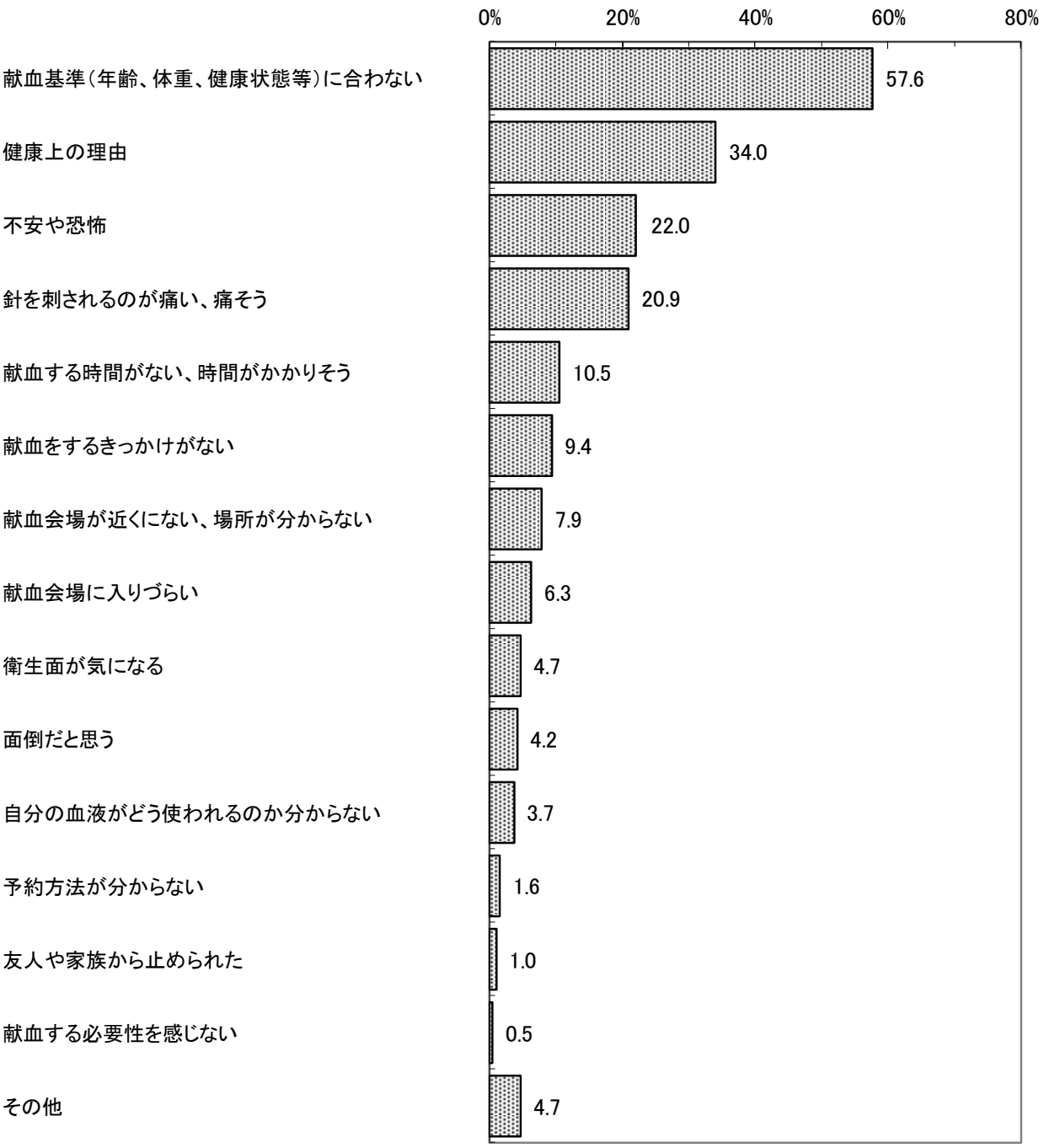
【調査結果の概要】

Q17で「思う」、「どちらかというと思う」と答えた方297人に、今後献血をしようと思う理由を聞いたところ、「自分の血液が役に立つ」(88.9%) が９割近くと最も高く、以下、「自分の健康管理につながる」(54.9%)、「軽飲食のサービスがある」(27.3%)などと続いている。

今後献血をしようと思わない理由

Q19　Q17で「どちらかというと思わない」、「思わない」と答えた方に伺います。今後献血をしようと思わない理由は何ですか。次の中から５つまで選んでください。

5MA(n=191)

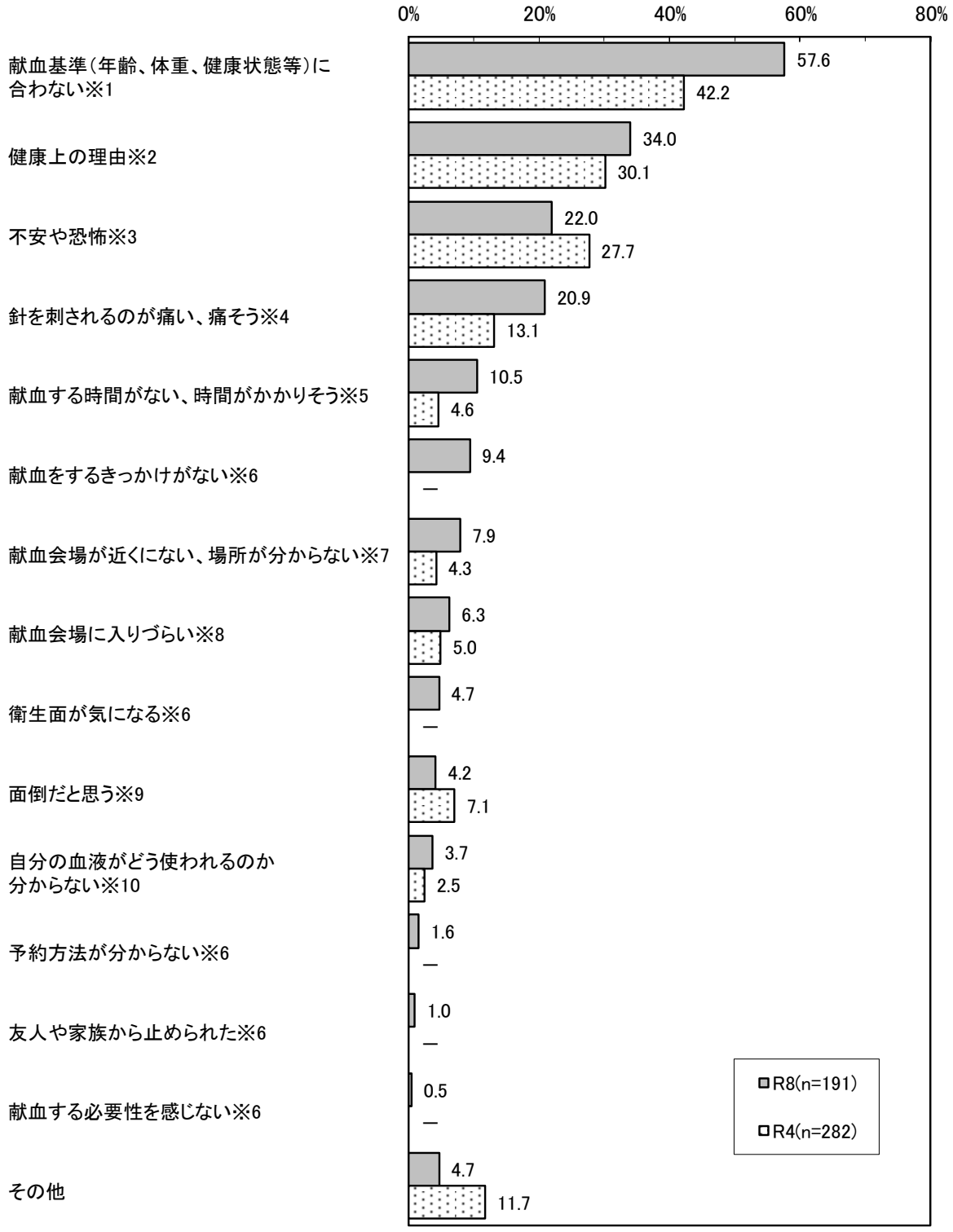


※　献血基準（日本赤十字社ホームページ）
https://www.jrc.or.jp/donation/about/terms/

【調査結果の概要】

Q17で「どちらかというと思わない」、「思わない」と答えた方191人に、今後献血をしようと思わない理由を聞いたところ、「献血基準（年齢、体重、健康状態等）に合わない」（57.6%）が６割近くと最も高く、以下、「健康上の理由」（34.0%）、「不安や恐怖」（22.0%）などと続いている。

◎前回調査との比較　＜前回：令和４年９月実施「歯と口の健康」と「献血への意識」＞



※1　令和4年度は「献血の基準に合わないから」で集計
※2　令和4年度は「健康上の理由から」で集計
※3　令和4年度は「不安や恐怖心があるから」で集計
※4　令和4年度は「針を刺されるのが痛い・痛そうだから」で集計
※5　令和4年度は「採血に時間がかかるから」で集計
※6　令和4年度は選択肢なし
※7　令和4年度は「献血できる場所が近くにない、分からないから」で集計
※8　令和4年度は「献血をする場所に入りづらいから」で集計
※9　令和4年度は「面倒だから」で集計
※10　令和4年度は「自分の血液がどう使われるのか分からないから」で集計

献血についての要望・意見（自由意見）

Q20　献血の広報・普及啓発活動や献血全般について、意見を自由にお書きください。（自由意見）

（n＝475）

(1) 献血の広報、発信の方法 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 174件
(2) 献血の普及啓発への取組 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 107件
(3) 献血の印象 ・・ 81件
(4) 献血への意向・不安 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 59件
(5) 献血の基準 ・・ 54件

（主なご意見）

(1)　献血の広報、発信の方法　　174件

○　若者は車内ポスターよりもSNSの方を見るので、10代20代向けにアピールするにはSNSが有効だと思う。街頭で声をかけられるのは少し抵抗がある。献血自体はこれからも続けていきたい。

（男性　20代　目黒区）

○　自分の知り合いでは、献血に定期的に行っている人と一度も行ったことがない人で両極端なイメージなので、初めての人が行きやすいきっかけを増やすのが良いと思う。特に若年層に向けてはSNSでの呼びかけが効果的と思う。芸能人ではなくインフルエンサーなど、より身近でよく見るコンテンツの人が献血について取り上げたり、実際に行った様子（献血に行く日のVlog）を見せてくれると、献血についての認知度が上がるし興味を持つきっかけになると思う。

（女性　20代　足立区）

○　献血は大事なので、もっと広報した方が良いと思います。

（女性　30代　品川区）

○　献血が医療において欠かせないものであることの周知徹底はもちろんだが、献血をすることは決して特別なことではなく、いつでも気軽にできることをもっとアピールした方がいい。

（男性　40代　練馬区）

○　献血した人の体験談をSNSで発信したり、献血が人の命を救うことに繋がることをもっとアピールする。

（女性　40代　日野市）

○　ポスター等でのキャンペーン周知も重要な施策の一環であるが、加えて、実際に役立っていることの広報活動が不足していると思います。

（男性　50代　墨田区）

○　本当に必要な人にどれだけ届けられているのか、困っている人がどれだけいるのか具体的にイメージできるように伝えてほしいです。

（女性　50代　調布市）

○　以前家族が手術をした際、輸血していただき、それ以来、献血の重要性を認識しました。献血が多くの人の命を救うこと、自分でも気軽に参加できることを若い人にアピールすれば良いと思います。

（女性　60代　国分寺市）

○　献血はいつでも誰でも気軽に出来るということをもっと宣伝した方が良いと思います。

（男性　70歳以上　新宿区）

○　実際に輸血を受けた方々の体験談・啓発活動をビデオメッセージでSNS等媒体で流す。浸透力が足りない気がします。

（女性　70歳以上　三鷹市）

(2)　献血の普及啓発への取組　　107件

○　街頭での献血の協力の呼びかけなどは何度も目にしていたが、その度に時間がなく、素通りしてしまったことに対して、スタッフの方々や献血を必要としている患者の方々に対して大変心苦しく感じていたが、以前よりも、血液事情が切迫していることや献血の重要性が理解できた。これからも患者の方々のために啓発活動は続けていただいて、私も協力できる時はしていきたいと思う。

（男性　10代　江東区）

○　通勤通学の際に若い人々の目にも留まりやすいので、電車内に献血の広告を出すことはとても効果的だと思います。また、私の通う大学にも定期的に献血バスが来るのですが、献血に要する時間が長いことと、献血バスが夕方には帰ってしまう（大学生は夜の方が日中より空いていると思うので、19時頃まで献血できると良いと思います）ため、利用できるタイミングが少ないと感じます。

（女性　10代　板橋区）

○　将来の安定供給に向け、学校・職場での献血機会を増やし、SNSで予約方法や不安を解消する情報を分かりやすく発信してほしいです。

（男性　20代　中野区）

○　献血は複数回行く人と全く行かない人の差が激しいと思います。予約しなくても、ぽっと入れるような気軽さが大切だと思いました。

（女性　30代　大田区）

○　献血は昔からしています。きっかけは高校生の時に学校に献血車が来たことです。今では自分の体調管理のためにも、近所に献血車が来るときは予約しています。身近に感じられれば献血をする人も増えるのではないでしょうか。

（女性　40代　板橋区）

○　献血は輸血が必要な人に、なくてはならない活動だと思います。私の会社では事業所によっては献血バスが来て勤務時間中に献血することが可能です。また、献血をするために最大で3時

間の時間有給休暇をとれます。こういった取組をアピールして献血がしやすい環境をつくりあげることが必要かと思います。

（男性　40代　昭島市）

○　自分の場合、４０回以上献血しています。広報活動等いくら周知徹底しても、献血をする人は自分で調べて行きます。高校生から学校教育での献血の大切さに予算をかけていただきたいです。

（男性　50代　葛飾区）

○　まだまだ認知されていないので、たくさん普及活動をしていただきたいです。

（女性　50代　西東京市）

○　献血バスなどによる献血が駅前や職場で実施されているのを見たり知ったりすれば、献血してみようかと思うかもしれませんが、そういう機会がないかぎり、普段特に意識して献血をしようと思っている人の数はそれほど多くないのでは、と想像します。啓発にあたっては、いつか献血された血液を使用する側になるかもしれないということを強調することが必要と考えます。

（男性　60代　江戸川区）

○　学校教育の中でも取り上げて、誰もが関心を持つようにした方がいいと思う。

（女性　60代　品川区）

○　なかなか献血をしてくれる方が増えていないのではと思いますが、報道等で取り上げ、血液を必要としている人達が大勢いる現実をもっと知ってもらうのが、大切なのではないでしょうか。

（女性　70歳以上　府中市）

(3)　献血の印象　　81件

○　所要時間や献血の必要条件等の詳細を簡潔にわかりやすく伝え続けていくことが必要だと感じる。今は圧倒的に情報が行き届いていないと思う。

（女性 20代　立川市）

○　献血は基準が厳しめなので、その基準を含めてわかりやすくかつ親しみやすい、難しいものではないのだということが全体に伝われば良いと思う。

（女性　30代　江東区）

○　具体的な流れがわかると参加しやすいと感じた。

（男性　30代　日野市）

○　手術のときに使われるイメージしか無かったが、例えば白血病などで血球の数値が低いときにも使われるということ、その状況が自分の家族や友人にも起こりうる可能性があるということを知ると自分ごとになり行動に変化が起こると思います。（私は入院したときに他の患者さんの様子を見て知ることができました。）

（男性　40代　台東区）

○　どうやったら普及するか考えるきっかけになりました。

（男性　50代　東村山市）

○　今回のアンケートに回答していて、日常で献血について話題になることが全くないことに気づきました。それだけ献血という行為が一般的ではないのかもしれません。自分がいつお世話になるかもしれない献血です。時には家族や友人との会話の中で話してみようと思います。

（女性　50代　福生市）

○　自分もリタイア後の時間が出来てから始めたのを後悔しています。もっと若いうちから献血しておけば良かったと思います。

（女性　60代　北区）

○　実際に役立ったという方の意見は、とても大切だと思います。私もそれで、必要性を強く感じたことがあります。

（男性　60代　武蔵野市）

○　献血を受けた側の喜びなど具体的に知れると良いと思う。

（女性　70歳以上　八王子市）

(4)　献血への意向・不安　　59件

○　今後も定期的に献血していきたいと思います。

（女性　20代　国分寺市）

○　動画やポスターはどこでも人の目に入るので良い。また自分も献血に行ってみようかなと思いました。

（女性　30代　杉並区）

○　若年世代で献血に興味があってもなかなか行くきっかけがなさそうなので、入りやすい環境は大切だと思う。あと、時間もかかるから、目安もわかると空き時間の活用の一つになりそう。

（女性　40代　世田谷区）

○　夏は暑くて体力も奪われるので、どうしても献血への意欲は下がってしまうと思われます。血液の使われ方をより広く知ってもらって、みんなの役に立つことだという認識をいかにもってもらうかです。継続的に訴えていくしかないと思います。

（男性　60代　西多摩郡）

○　献血をしたいと思ったのは、70歳を過ぎてからでした。若い時は、時間に余裕なく、献血することに思いが至りませんでした。

（女性　70歳以上　中野区）

(5)　献血の基準　　54件

○　街頭での声掛けから行ってみたことがありました。好きなだけ飲み物が飲めて他の人も思い思いに過ごしていてとても良い雰囲気でした。その時は献血基準に達していなかったためできなかったのですが、スタッフさんはとても感謝してくれました。私のように街頭で興味を持って立ち寄る人も多いと思うので、ぜひこのまま続けて欲しいです。知らない人も多いと思うので、SNSなどでの広報活動も効果的だと思います。

（女性　10代　武蔵野市）

○　高校などでの献血機会を増やすなど、若年齢からの理解、習慣化が進むといいと思う。

（男性　40代　八王子市）

○　献血により救われる命があること、一回の献血量によって献血者の健康状態を損ねることは殆どないこと、血液の減少が気になる場合には成分献血という選択肢もあることなどを広く知って貰えれば献血者の増加に繋がるのではないかと思います。

（男性　50代　足立区）

○　献血には年齢制限があるので、若い人が継続的に啓発活動に関わって若者の輪を広げて欲しい。

（女性　70歳以上　小金井市）

○　年齢制限を超えていてもう献血はできませんが、今までに121回献血をしていて達成感があります。献血は誰にでもできる社会貢献という意義をもっとたくさんの若者に知ってもらいたい。

（男性　70歳以上　板橋区）